

平成 21 年度

# 金沢市埋蔵文化財調査年報

平成 22 年 3 月  
(2010 年)

金 沢 市

(金沢市埋蔵文化財センター)

## 例 言

1. 本書は、金沢市都市政策局歴史遺産保存部文化財保護課および金沢市埋蔵文化財センターが平成21年度に行った埋蔵文化財保護行政の概要、成果および結果を公表することを目的として刊行するものである。
2. 本書は、平成21年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査、分布調査、および教育・普及・啓発活動に関することを中心に編集したものである。
3. 本書に掲載した埋蔵文化財の遺構・遺物等の写真は、それぞれの担当者が撮影した。

## 目 次

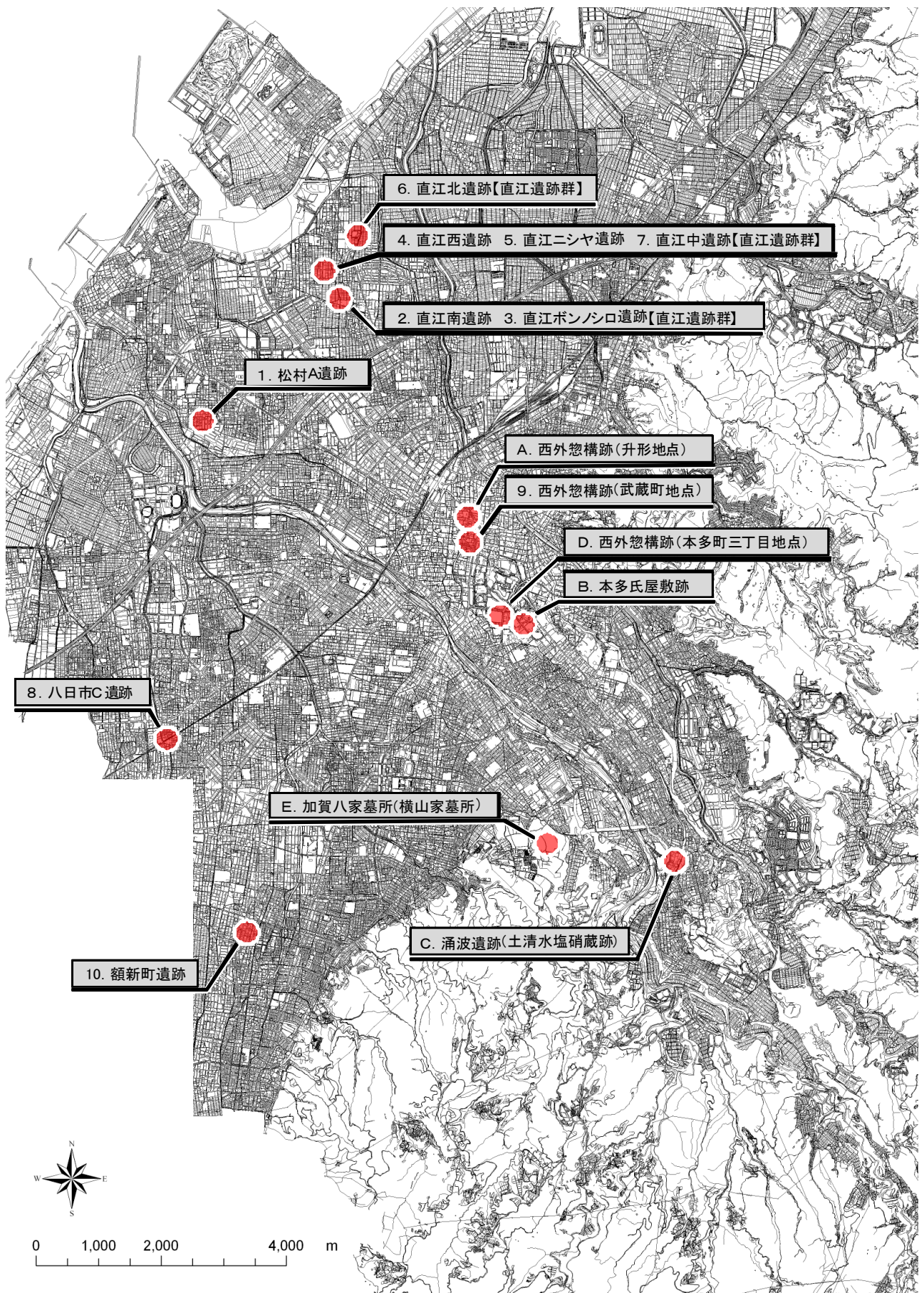
1. 埋蔵文化財発掘調査等事業 .....	1
2. 埋蔵文化財分布調査事業 .....	29
3. 教育・普及・啓発活動事業 .....	35
4. 組織.....	40

# 1. 埋蔵文化財発掘調査等事業

## (1) 埋蔵文化財発掘調査等一覧

No	調査地	調査面積	調査原因	調査期間	立地	経費(千円)	出土遺物数	時代	主な遺構	主な遺物
<b>緊急発掘調査</b>										
<b>松村 A 遺跡</b>										
1	金沢市 松村七丁目地内	170㎡	道路建設 (公共)	20090529 ～ 20090605	沖積地	441	1箱	縄文 古墳 中世	溝	縄文土器 土師器
<b>直江南遺跡【直江遺跡群】</b>										
2	金沢市 直江町口地内	200㎡	区画整理 (民間)	20090707 ～ 20091209	扇状地	42,400 (3～7と合算)	16箱	古代 中世	井戸 大型土坑 溝	土師器 須恵器 陶磁器 木製品 漆製品 石製品 金属製品
<b>直江ボンノシロ遺跡【直江遺跡群】</b>										
3	金沢市 直江町口地内	450㎡	区画整理 (公共)	20090713 ～ 20091209	沖積地	42,400 (2・4～7と合算)	12箱	弥生 古墳 古代 中世	土坑 溝 川	弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 木製品 石製品 金属製品
<b>直江西遺跡【直江遺跡群】</b>										
4	金沢市 直江町ハ地内	300㎡	区画整理 (民間)	20100714 ～ 20091209	沖積地	42,400 (2・3・5～7と合算)	5箱	弥生 古墳 古代 中世	土坑 溝 川	弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 木製品 石製品 金属製品
<b>直江ニシヤ遺跡【直江遺跡群】</b>										
5	金沢市 直江町口地内	700㎡	区画整理 (民間)	20090714 ～ 20091209	沖積地	42,400 (2～4・6・7と合算)	3箱	古墳 古代 中世	井戸 土坑 溝 川	土師器 須恵器 陶磁器 木製品 石製品 金属製品
<b>直江北遺跡【直江遺跡群】</b>										
6	金沢市 直江町ホリ地内	1,300㎡	区画整理 (民間)	20090728～ 20091209 20100308～ 20100317	沖積地	42,400 (2～5・7と合算)	18箱	縄文 弥生 古墳 古代 中世	掘立柱建物 井戸 土坑 溝	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 木製品 漆製品 石製品 金属製品
<b>直江中遺跡【直江遺跡群】</b>										
7	金沢市 直江町ハハ地内	1,680㎡	区画整理 (民間)	20091026 ～ 20091209	沖積地	42,400 (2～6と合算)	6箱	縄文 弥生 古代 中世	掘立柱建物 土坑 溝 川	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 木製品 漆製品 石製品 金属製品
<b>八日市 C 遺跡</b>										
8 (1)	金沢市 八日市二丁目地内	650㎡	道路建設 (公共)	20090911 ～ 20091015	扇状地	5,280	1箱	古墳 古代	竪穴建物 土坑 溝	土師器 須恵器 石製品
<b>八日市 C 遺跡</b>										
8 (2)	金沢市 八日市二丁目地内	1,470㎡	鉄道建設 (公共)	20091027 ～ 20091222	扇状地	5,240	1箱	古墳 古代	竪穴建物 土坑 掘立柱建物 溝	土師器 須恵器 石製品
<b>西外惣構跡(武蔵町地点)</b>										
9	金沢市 武蔵町地内	170㎡	道路拡幅 (公共)	20091006 ～ 20091117	扇状地	2,364	1箱	江戸	堀 土坑	陶磁器 土器 瓦 木製品
<b>額新町遺跡</b>										
10	金沢市 額新町二丁目地内	130㎡	共同住宅建替 (公共)	20100301 ～ 20100331	沖積地	1,429	1箱	古墳	ピット 土坑 溝	土師器
<b>学術調査</b>										
<b>西外惣構跡(升形地点)</b>										
A	金沢市 本町一丁目地内	190㎡	学術調査 (公共)	20090527 ～ 20090724	扇状地	1,500	90箱	江戸	堀 石垣 礎石建物 土坑	陶磁器 土器 木製品 石製品 金属製品
<b>本多氏屋敷跡</b>										
B	金沢市 出羽町、本多町地内	20㎡	学術調査 (公共)	20090924 ～ 20091030	丘陵	2,000 (Dと合算)	2箱	江戸	塀基礎石積 門 跡 石段 石垣	瓦 陶磁器
<b>涌波遺跡(土清水塩硝蔵跡)</b>										
C	金沢市 涌波町突地内	100㎡	学術調査 (公共)	20091106 ～ 20091130	河岸段丘	1,900 (土地借上代含む)	10箱	江戸	搦藏跡 道路跡	瓦 陶磁器 土器
<b>西外惣構跡(本多町三丁目地点)</b>										
D	金沢市 本多町三丁目地内	18㎡	学術調査 (公共)	20091207 ～ 20091215	丘陵裾	2,000 (Aと合算)	1箱	江戸	惣構土居盛土	陶磁器
<b>加賀八家墓所(横山家墓所)</b>										
E	金沢市 野田町野田山1	43㎡	学術調査 (公共)	20091106 ～ 20091204	丘陵	1,150	1箱	江戸	区画溝 基壇	土器 陶磁器 金属製品 弥生土器 打製石斧

(2) 埋蔵文化財発掘調査等位置



### (3) 埋蔵文化財発掘調査概要

#### 1. 松村<sup>まつむら</sup>A遺跡

(遺跡番号 県：01096 市：135J・K・S・M)

所在地：金沢市松村七丁目地内

北緯 36° 35′ 08″

東経 136° 36′ 34″

調査面積：170 m<sup>2</sup>

種 別：集落跡

主な時代：縄文・古墳・中世

担 当：谷口 主査



#### 遺跡の概要

松村A遺跡は宅地造成事業に伴い金沢市埋蔵文化財センターが調査を実施したものである。対象面積は170m<sup>2</sup>で、平成21年5月29日から6月5日にかけて現地調査を実施した。

遺構検出面は黄褐色を呈した強粘性の粘質土である。溝や穴は黒色あるいは灰色・茶褐色を呈する弱粘性の粘質土で、遺構の識別は容易であった。確認した遺構として、比較的規模の大きい溝が3条、小さなものが5条ある。このほか、調査地点の西側で大きな落ち込みを確認した。溝Aは方位に沿って配置されているので区画に用いた溝と考えられる。溝Bと溝Cは大きな弧を描いている。3条とも台形の断面を呈している。溝Cは大きな落ち込みにつながっていることから、落ち込みに水を逃がしていた排水溝が想定される。溝Bと溝Cからは古墳時代の土器が出土している。溝Dから、縄文時代の土器が少量出土している。調査地点を概観すると、東西にかけてなだらかな比高差があり、西端には大きな落ち込みが展開している。落ち込みについては、湿地あるいは大きな河川の肩、池・沼などが想定される。

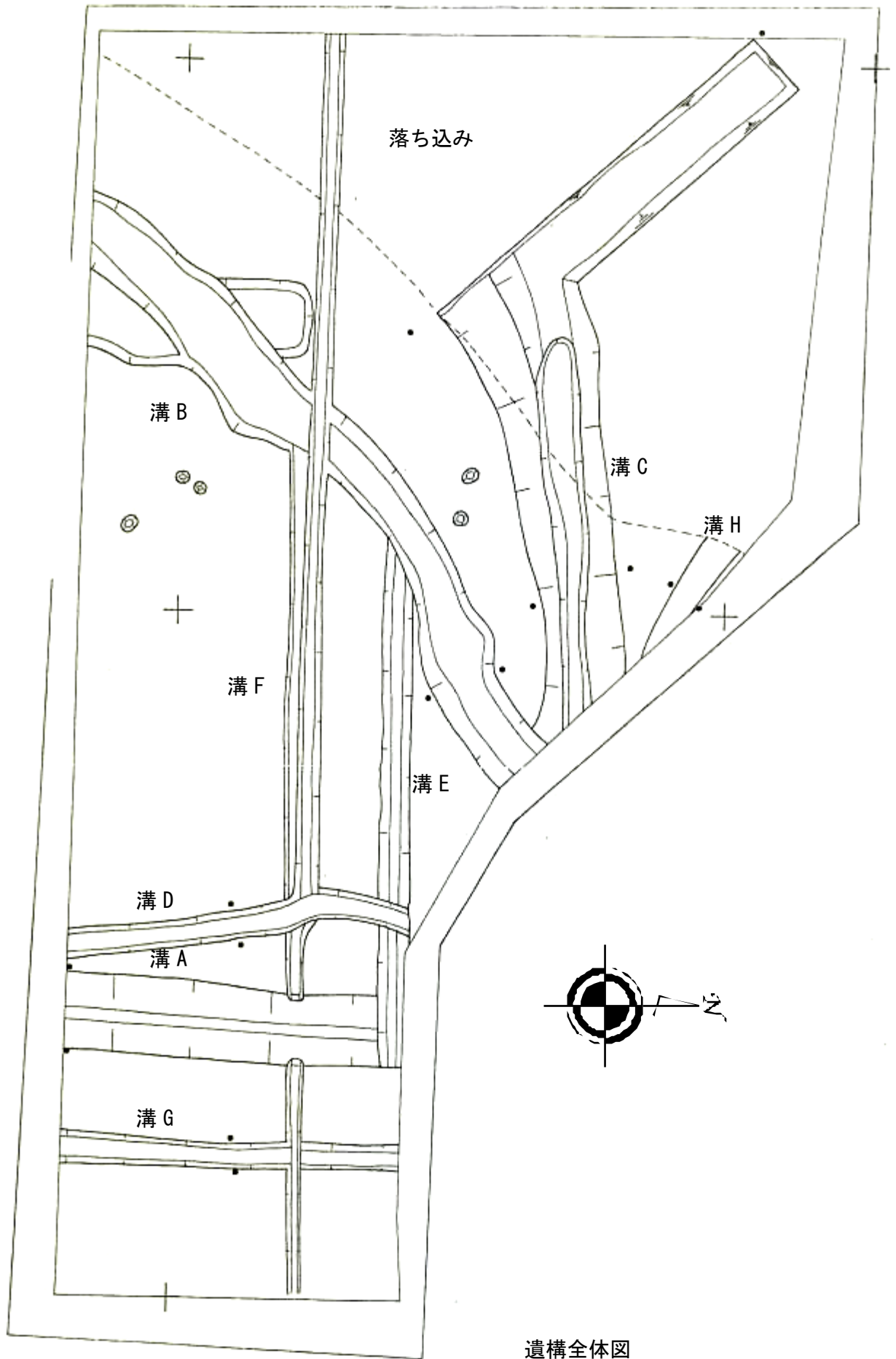
出土した遺物は縄文時代の土器の破片と古墳時代の土器の破片である。縄文土器は約2,800年ほど前の縄文時代晩期の下野式に該当する。下野式の大きな特徴は土器の表面に板状の工具で土器の口縁部から底部にかけて縦や斜め方向に線刻（条痕）を施すものである。古墳時代の土器は甕の口縁部分や高坏の脚などが出土した。甕は食べ物、特にコメを炊くための煮沸具で、高坏は食べ物の盛り皿であったとみられる。以上のことから、今回調査を実施した地点では縄文時代と古墳時代の人々の営みについて確認することができた。



調査地点全景



西側落ち込み



遺構全体図

なおえみなみ  
2. 直江南遺跡【直江遺跡群】

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市直江町口地内  
北緯 36° 36' 10"  
東経 136° 38' 01"

調査面積：200 m<sup>2</sup>

種別：集落跡

主な時代：古代・中世

担当：向井 主任主事



### 遺跡の概要

本遺跡は、直江ボンノシロ遺跡の東側に隣接し、古代・中世の遺物が出土しているが、遺構は鎌倉時代に限られる集落遺跡である。

金沢市副都心北部直江土地区画整理事業にともない街路部分について発掘調査を実施した。

発掘調査では、鎌倉時代の井戸を5基検出している。井戸側は、縦板組横棧留めや曲物積み、縦板と曲物積みを併せたもの、曲物積みと横板を併せたものなど、多様な様相を呈している。井戸からは土師器皿や箸状木製品などが出土している。井戸群からやや東に離れた場所で大型の方形土坑を検出しているが、完形品で出土した漆器小皿と椀は、出土状況から埋納品の可能性が高い。なお、掘立柱建物は検出していないが、井戸の集中具合から調査区周辺に展開しているものと予想される。



直江南遺跡全景



鎌倉時代の井戸 (SE01)



鎌倉時代の井戸 (SE05)

### 3. 直江ボンノシロ遺跡【直江遺跡群】

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市直江町口地内  
北緯 36° 36' 10"  
東経 136° 37' 58"

調査面積：450 m<sup>2</sup>

種別：集落跡

主な時代：弥生、古墳、古代、中世

担当：前田 主任主事 向井 主任主事



#### 遺跡の概要

本遺跡は、直江南遺跡の西側に隣接し、調査区を大きく占める川跡から、弥生時代から中世までの遺物が出土している。

金沢市副都心北部直江土地区画整理事業にともない街路部分について発掘調査を実施した。

発掘調査では、調査区東側を流れる鞍月用水沿いで川を検出している。川からは弥生時代後半～古墳時代、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代の遺物が出土しており、弥生土器や古墳時代の土器、須恵器、奈良・平安時代の土器や須恵器、墨書土器、鎌倉・室町時代の土師器皿や珠洲焼、越前焼、白磁、青磁などのほか、漆器や木製品など多彩な品が出土している。

複数の川が重複しており、調査区内では明治頃の川までを確認しているが、徐々に流路が整備されて、調査区に隣接する現在の鞍月用水へと姿を変えたものと考えられる。



直江ボンノシロ遺跡全景



弥生～近代の川(SD01・02)



弥生～近代の川(SD01・02)



#### 4. <sup>なおえにし</sup>直江西遺跡【直江遺跡群】

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市直江町ハ地内

北緯 36° 36' 12"

東経 136° 38' 05"

調査面積：300 m<sup>2</sup>

種 別：集落跡

主な時代：弥生、古墳、古代、中世

担 当：前田 主任主事 向井 主任主事



#### 遺跡の概要

本遺跡は、直江中遺跡の南方約 150m に所在し、主に弥生時代、古墳時代の遺物が出土している。

金沢市副都心北部直江土地区画整理事業にともない街路部分について発掘調査を実施した。

発掘調査では、弥生時代末頃から古墳時代前半頃の土坑と川を検出している。川は近世の川と重複しているために形状や規模は不明である。川からは土器の他、木製容器や火切り臼などの木製品が出土している。



直江西遺跡全景



弥生～古墳時代の川 (SD03)



弥生～古墳時代の溝 (SD02)

## 5. <sup>なおえ</sup>直江ニシヤ遺跡【直江遺跡群】

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市直江町口地内

北緯 36° 36′ 06″

東経 136° 38′ 05″

調査面積：700 m<sup>2</sup>

種別：集落跡

主な時代：古墳、古代、中世

担当：前田 主任主事 向井 主任主事



### 遺跡の概要

本遺跡は、直江西遺跡の南方約 100m に所在し、古代から中世までの遺物が出土している。

金沢市副都心北部直江土地区画整理事業にともない街路部分について発掘調査を実施した。

発掘調査では、平安時代の溝と鎌倉時代の井戸、室町時代から江戸時代にかけての大溝を検出している。井戸は縦板組横棧留めと曲物積みの井戸側を確認している。縦板組の方形井戸からは、井戸枠内の覆土上位層より完形品の土師器皿が 4 点出土しており、井戸埋めの際の祭祀に用いたものと考えられる。大溝は南北方向に 1 条、東西方向に 4 条検出しており、土器や陶磁器、木製品などが出土している。覆土からは近世の遺物が出土しているが、地山近くの砂層から室町時代頃の遺物が出土しているため、室町時代頃につくられたものが、江戸時代まで使用されていたものと考えられる。



直江ニシヤ遺跡全景



中近世の大溝



鎌倉時代の井戸

## 6. <sup>なおえきた</sup>直江北遺跡

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市直江町ト・リ地内

北緯 36° 35′ 01″

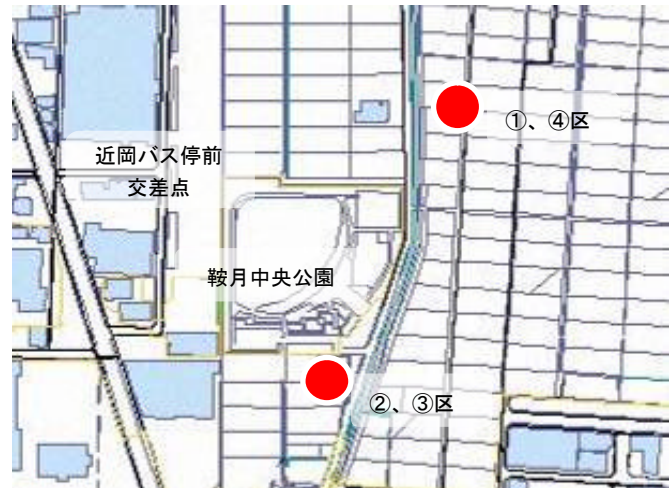
東経 136° 44′ 51″

調査面積：1,300 m<sup>2</sup>

種別：集落跡

主な時代：縄文、弥生、古墳、古代、中世

担当：前田 主任主事 向井 主任主事



### 遺跡の概要

本遺跡は直江中遺跡の北方約 100m から展開し、直江遺跡群のなかで一番北に位置している。平成 19 年度から調査を行っており、今年度は大小 4 カ所の調査区を発掘した。便宜上、北から①、④、②、③区と称する。

①区は南北に長い調査区で、北端から南端まで 70m の間に地山が変化している。北端に斜め方向の溝 SD215 が設けられ、溝底とそれより北の地盤はひどく湧水する軟弱な粘土であった。溝より北には深く掘り込まれる遺構がないことと、かつての分布調査でこの調査区より北では遺構や遺物が確認されなかったことから、この地点での遺跡の端であると考えられる。溝から南はやや軟質の粘質土の地盤で、中央よりやや南に、自然河川のなごりであろう、粗砂の帯が広がっている。写真では濃い茶色に見える部分である。遺構は SD215 から少し離れたところから展開している。全体にピットが展開しているが、建物や柵列と認識できるものはなかった。主な時代は古墳時代初頭と 8 世紀後半で、前者も後者も井戸 1 基、浅い土坑と溝複数が発見された。古墳時代初頭の井戸は堀方が小さいが、前述した自然河川の跡に設けられているため、堀方は浅く狭いが、激しく湧水する。底には完形の甕が埋設されていた。8 世紀後半の井戸は素堀りで、「諸刀自女」の墨書のある須恵器杯と広口瓶が発見された。

④区は①区の 60m 南に位置する。弥生時代終末から古墳時代初頭の遺物を含む土坑が複数発見され、そのうち幾つかは井戸と考えられる。

②区は調査前は鞍月中央公園の駐車場であったところで、公園のための地下埋設物で遺跡の一部が破壊されていた。①区の 120m 南、④区の 56m 南に位置する。地盤は安定した粘質土で、2 時期に大別できる遺構が集中していた。一つは弥生時代終末期から古墳時代初頭で、南北方向の太い溝 4 条とこれらの溝に切られている掘立柱建物の柱穴がいくつか発見された。溝は互いに近接し、切り合っている。最大の溝 SD195 は東岸に不整形の浅く広いテラスをもち、上面に大量の土器片が散乱していた。またこの SD195 と SD190 が接触する地点に、細い板で囲んだ柵状の施設が設けられていた。もう一つの時代は 8 世紀後半頃で、2×2 間の掘立柱建物 1 棟とその北辺と西辺を区画する浅い溝が 2 時期重複している。このほか、弥生時代中期の遺物片が複数の溝から少量発見されているので、上記 2 時期の前から集落は存続していたのであろう。

③区は②区の 70m 南に位置する。遺構が散漫で、集落の縁辺にあたると思われる。溝も土坑も浅く、ピットは東辺にのみ展開している。遺物は少ないが、弥生時代終末期のものようである。



①区全景（左が北）



②区全景（左が北）



SE09 墨書土器(①区)



弥生時代終末の溝の東岸(SD195 ②区)



③区全景（左が北）



④区全景（右が北）

なおえなか  
7. 直江中遺跡【直江遺跡群】

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市直江町ハ・ト地内

北緯 36° 36′ 28″

東経 136° 38′ 00″

調査面積：1,680 m<sup>2</sup>

種別：集落跡

主な時代：縄文、弥生、古代、中世

担当：前田 主任主事 向井 主任主事

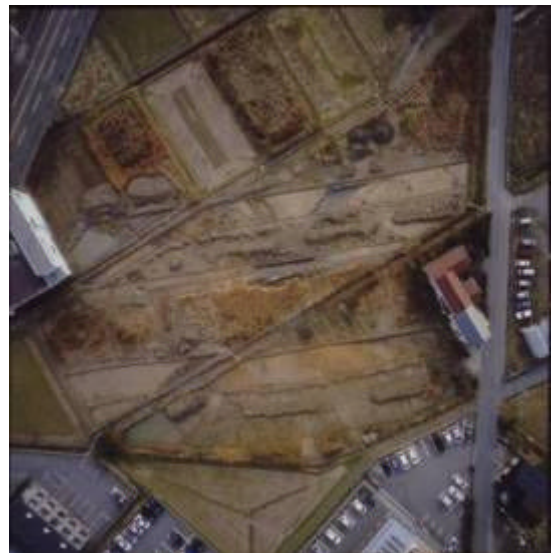


### 遺跡の概要

本遺跡は、直江北遺跡から南西方向に約 200m の位置に所在し、縄文時代晩期から近世までの遺構・遺物を確認している。中心時期は鎌倉時代から南北朝時代頃であり、他の時代は少ない。

平成 20 年度から調査を行っており、今年度の調査区は前年度のそれに接する 3 箇所、北東-南西方向に長い。西側を①区、中央を③区、東側を②区と称する。

鎌倉時代から室町時代と考えられる遺構には掘立柱建物、川、溝、土坑がある。掘立柱建物は、①区で前年度に検出された掘立柱建物のうち 2 棟の続きが確認された。これにより SB04 は 2×3 間、SB05 は 4×4 間の総柱建物となった。川は①～③区で前年度の続きである SD01・02 が検出された。土坑は不整形で浅いものが多く、遺物が少数しか含まれていない。土坑のうち SK23 は上端で直径 2.4m、深さ 0.7m という大型で、底が湧水するので井戸の可能性はある。構造物は確認できず、遺物は縄文土器から中世土師器が混合していた。



調査区全景 上から(②区、①区、③区)



中世と近世の川(SD01、SD02 ②区)



中世の井戸か(SK23 ③区)

## 8. ようかいち 八日市 C 遺跡

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市八日市二丁目地内

北緯 36° 32′ 42″

東経 136° 36′ 18″

調査面積：2,120 m<sup>2</sup>

種別：集落跡

主な時代：古墳、古代

担当：谷口 主査 谷口 主任主事



### 遺跡の概要

八日市 C 遺跡は金沢市の西部、野々市町との境界にごく近い JR 北陸本線沿いに位置する。手取川により形成された扇状地の端部、砂質土と礫が互層をなす水はけの良い土壤に立地する。遺跡周辺は住宅地が広がり国道 8 号線や JR 野々市駅からも近く人口の密集する地区である。

本遺跡の発掘調査は北陸新幹線建設工事に伴い実施したものである。調査は新幹線橋脚部分 1,470 m<sup>2</sup>と橋脚側道部分 650 m<sup>2</sup>の 2 箇所に分けて実施することとなり、後者は平成 21 年 9 月 11 日から同 10 月 15 日まで、前者は同 10 月 27 日から同 12 月 22 日まで実施した。

調査区は北東—南西に細長い長方形を呈し、市道や用水により大きく 3 地区に区分される。ここでは北東より A 区、B 区、C 区と呼称する。調査区全体を通して遺構検出面は黄褐色シルトを基本とし、部分的に礫層が入り込む。遺構は検出面に黒色、灰色、茶褐色の粘質土が切る形で存在する。

A 区は遺構検出面に礫層が広く分布するものの、礫を切り込む形で遺構が分布し、竪穴建物跡と掘立柱建物跡が各 1 棟ずつ検出されている。竪穴建物跡 ST01 の内部には暗黒褐色粘質土が堆積し、部分的に被熱痕のある土器が出土したことから竈状施設の存在が想定されるが明確な遺構は確認されなかった。出土遺物から奈良時代の遺構と見られる。掘立柱建物跡 SB01 は ST01 の西側に隣接して検出され、梁行 2 間×桁行 3 間で南北約 6m、東西約 4.5m を測り、主軸を南北方向に向ける。柱穴跡からの出土遺物がなかったものの周辺状況から ST01 と同時期の遺構と見られる。A 区の東側では検出面が徐々に低くなると同時に礫層が大きく表出し、遺跡の縁辺部の様相を呈する。

B 区からは掘立柱建物跡 2 棟及び土坑 3 基と溝状遺構数条を検出している。掘立柱建物跡 2 棟のうち東側に位置する SB02 は四面庇を持つ掘立柱建物である。主屋は 2 間×2 間で、その四面に庇を配する。庇を含めた建物規模は南北 4.8m×東西 4.5m を測る。仏堂に類する性質を持つ施設であると考えられる。西側の掘立柱建物 SB03 は梁行 1 間×桁行 2 間の小型建物で南北 2.2m、東西 2m と平面形がほぼ正方形を呈し東西方向に主軸を向ける。SB02 と規模が類似し主軸も同方向を向くため SB02 との関連性が想定される。

C 区からは竪穴建物跡 1 棟と溝状遺構数条を確認している。竪穴建物跡 ST02 は調査区の南端でその一部分を検出した。遺構の大部分が調査区外に位置するため詳細規模は不明だが、1 辺 2m 以上の平面方形を呈すると見られ床面端部に壁周溝を持つ。土師器甕胴部破片 3 点が出土している。溝状遺構は古墳時代の遺物が出土するものと古代の遺物が出土するものがある。C 区の南西部端は鞍部状に落ち込み、遺跡の縁辺部の様相を呈する。

調査区の東端及び西端で遺構面の落ち込みを確認しており、本遺跡は A～C 区の平坦な空間に展開す

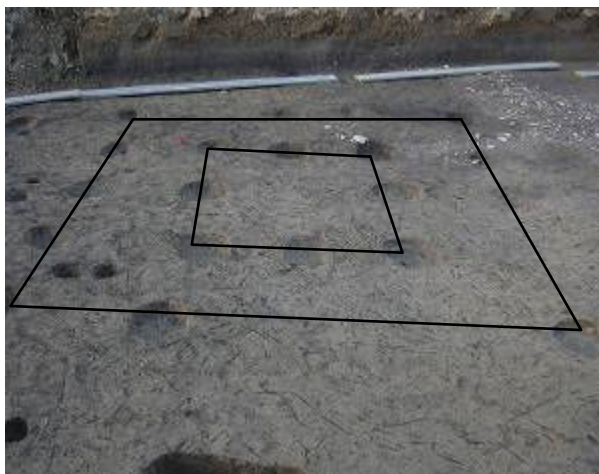
ることになる。遺構・遺物は奈良時代のものが中心で当該期の集落が遺跡の主体をなし、部分的に古墳時代のものが散布する状況にあり、本遺跡は当該2時期の集落跡であると結論づけられる。



A区 SB01



A区 ST01



B区 SB02



B区 SB03



C区 ST02



C区 作業風景

にしそとそうがまえあと むさしまち  
9. 西外惣構跡（武蔵町地点）

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市武蔵町地内

北緯 36° 34' 19"

東経 136° 39' 10"

調査面積：170 m<sup>2</sup>

種別：惣構跡

主な時代：江戸

担当：新出 主任主事



### 遺跡の概要

西外惣構跡（武蔵町地点）は市街地中心部の武蔵町にあり、犀川と浅野川に挟まれた扇状地上に位置する。

発掘調査は道路工事に先立ち行ったもので、現地調査に要した期間は平成 21 年 10 月 6 日～同年 11 月 17 日である。調査の結果、近世の西外惣構跡の一部が確認された。現地表面から、地山までの深さは約 1.1m である。平成 17 年度に調査した場所の延長部分を調査した。

調査区西側で惣構の堀東肩の一部を検出した。（大部分は現代の建物基礎で破壊されていた。）この堀肩から現在でも残っている惣構の端までの幅を計測すると、堀幅はおおよそ 9.8m であった。さらにこの堀方から惣構の内道までの距離を土居幅として計測すると、約 9.5m であった。

堀の深さは、2.5m まで掘り下げたが、トレンチ幅が狭く底を確認していない。出土遺物は木製品が多いが、肥前のすり鉢底部など陶磁器も少量出土している。

調査区の東側で、土居があった部分では、土居の盛土と考えられる層が 35 cm～80 cm にわたり堆積していた。しかし、この層からの出土遺物は無く、土居を壊してから掘り込まれたと考えられる明治時代の土坑が数基検出された。このことから、江戸時代末まで土居は機能していたと思われる。

本遺跡は城下町の西外惣構跡で、惣構の構造や機能を知る上で貴重な遺跡といえよう。



遺構全体(東から撮影)



堀の断面(南から撮影)



## 10. 額新町遺跡

ぬかしんまち

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市額新町二丁目地内

北緯 36° 34' 24"

東経 136° 39' 19"

調査面積：130 m<sup>2</sup>

種 別：集落跡

主な時代：古墳

担 当：前田 主任主事



### 遺跡の概要

額新町遺跡は、市営住宅の建て替えを契機に発見され、平成5年に最初の発掘調査が行われている。その際、3,230 m<sup>2</sup>の調査区の北半分と東半分で掘立柱建物や竪穴建物が検出された。そのため古墳時代前期と平安時代後期の集落跡であり、調査区は遺跡の南端と西端にあたと考えられていた。(金沢市教育委員会 1995年 『金沢市額新町遺跡』金沢市文化財紀要 116)

今回も市営住宅の建て替えに伴い、前回の約40m南の地点を130 m<sup>2</sup>調査したところ、溝2条、大小の土坑4基、ピット30基余りが検出された。溝のうち1条は調査区の西端を通過して南北に走り、幅0.7~1.1m、深さ0.5~0.3mを測る。方向と規模から前回調査で検出された溝SD01の延長と思われるため、共通の遺構番号とした。溝底は北へ向かって深くなり、所々に砂利と人頭大の自然石が残されていた。出土遺物は土師器の小片が数点あるのみなので、古墳時代のもものと推定するに留める。前回の調査区と同じく、SD01より東にピットが展開するが、建物や柵列などと認識できるものはなかった。土坑のうち1基は調査区の北辺に端がのぞいており、その部分で長軸3.0m以上、深さ0.4mを測るのでかなり大きな土坑なのであろうが、時期を比定できる遺物はない。

前回と今回の調査成果を併せて考えれば、額新町遺跡は空閑地(前回調査区の南西部分)をはさんだ北側と南側(今回調査区)に遺構が展開していることになる。北側は竪穴建物や遺物包含層から多くの遺物が出土したが、南側は遺構にも遺物包含層にも遺物がほとんど含まれていないため時期の比定は難しく、また遺跡の中心は北側にあると考えられる。



調査区全景(西から)



SD01(南から)

#### (4) 学術調査の概要

##### A. 西外惣構跡（升形地点）

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市本町一丁目地内

北緯 36° 34′ 25″

東経 136° 39′ 12″

調査面積：190 m<sup>2</sup>

種別：城下町、惣構跡

主な時代：江戸

担当：庄田 主任主事



#### 遺跡の概要

金沢城惣構跡は、金沢城を中心として城下町を取り囲んだ東西それぞれ二重の惣構で、おもに堀と土居の遺構からなる。平成 20 年 12 月 26 日には、おもに公有地として管理されている堀跡と土居跡、虎口、内道を金沢市史跡として指定している。

西外惣構は、金沢城防備のため、慶長 15 年(1610)に造営されたといわれる。起点は、金沢城南東側、現在の石川県社会福祉会館北側の小立野台地裾部で、西回りに北上し、香林坊・長町・武蔵町を経て、本調査地を通り、本願寺東別院北西辺を北上して浅野川小橋付近へと向かう。

升形は、西外惣構と旧宮腰往還が交わり、軍事・交通の要衝である虎口に設けられた防御施設で、堀には橋を架け、その城側に堀と土居で方形に囲いこんだ升の様な形の空間を設けている。升形の軍事的役割は、17 世紀中頃の段階で既に希薄となっていたらしく、寛文 7 年(1667)の金沢城下図では、升形内側の土居を部分的に削る様態で町屋が数軒建てられている。文化 8 年(1811)の『金沢惣構絵図』（金沢市立玉川図書館蔵）によると、町屋のうち升形橋に近い 2 軒は橋番（惣構橋番人）となっている。

平成 20 年 7～8 月、升形推定地において、遺構の残存状況を確認するための試掘を実施し、升形土居側の構築当初の素掘りの堀岸と、江戸後期に堀岸となった石垣を確認した。

平成 21 年度の調査は、平成 21 年 5 月～6 月にかけて、将来の復元整備に備えた基礎資料を得るため、石垣を中心とした堀の全体像を明らかにすることを目的に実施した。

調査の結果、当初推定約 11m あった堀幅を、4 段階に分けて石垣を築いて狭めており、堀の規模変化における画期は、次の 5 期に分られることが判明した。

##### 第 1 期（17 世紀初め～後半）

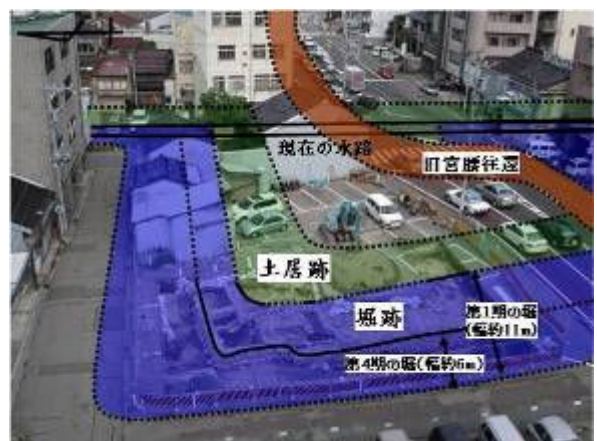
構築当初の升形の堀は、石垣を伴わない土手の状態となっており、堀の深さは約 3m だった。

##### 第 2 期（17 世紀末～18 世紀初め）

西側の堀の旧宮腰往還寄りにおいて、突き出た形状に石垣を築き、この部分の堀幅を推定約 6m に狭めた。埋立地には礎石建物を建てている。

##### 第 3 期（18 世紀前半～後半）

第 2 期石垣の北側に新たに石垣を築き、宅地裏手を 4m 北に広げた。



升形全景の模式図

#### 第4期 (18世紀末～19世紀中頃)

堀の北面全体に石垣を築いて堀幅を狭めた。この段階の石垣は、西面で長さ約18m、北面で約7mを確認した。堀の深さは約2mとなった。

#### 第5期 (明治時代初め～)

堀を埋めて幅約50～80cmの水路にした。堀の埋め立ての際、石垣をそのまま石組水路の片側として再利用し、その対面に新たに石組を築いた。堀の埋め土からは、「万延年製」(1860年)銘の瀬戸染付碗が出土した。堀の埋め土出土物は、幕末～明治初期のもので占められており、升形の堀が明治2～3年(1869～70年)頃埋められたとされる記述を裏付けるものである。



升形全景



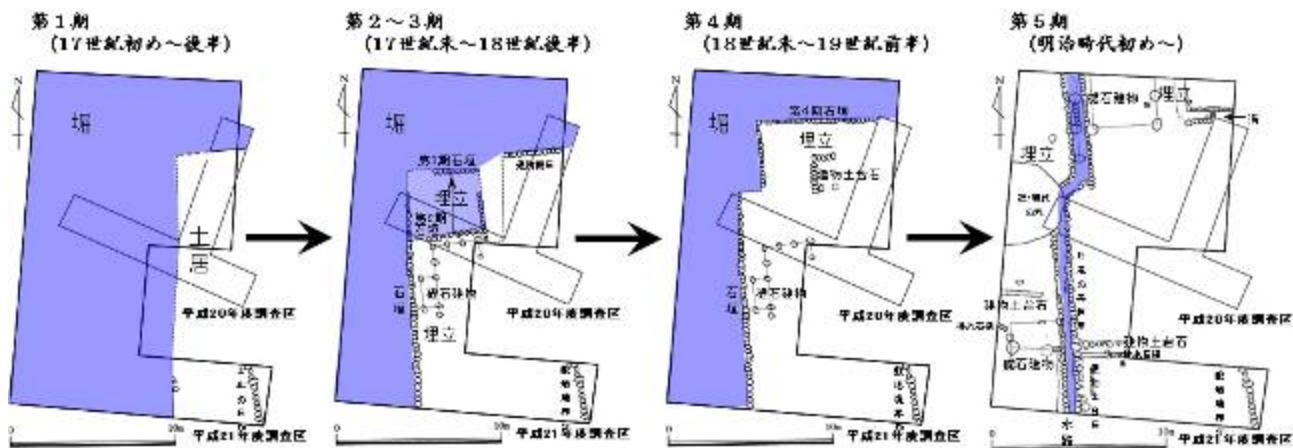
第1期土居岸



石垣の変遷



明治期の水路



升形の変遷図

## B. 本多氏屋敷跡

〈遺跡番号 県：01222 市：258E〉

所在地：金沢市本多町三丁目地内

北緯 36° 33′ 34″

東経 136° 39′ 39″

調査面積：20 m<sup>2</sup>

種別：城下町

主な時代：江戸

担当：庄田 主任主事



### 遺跡の概要

加賀藩では、貞享3年(1686)からの職制改革により、元禄3年(1690)以後、藩の重役である年寄衆を八つの家柄(八家)が代々世襲し、月交代で藩の執政を担当、重要事項の決定には合議制を敷き藩政の運営をした。本多家は八家のなかでも最高の5万石を知行した。当主が居住し家中政務を執り行った上屋敷は、小立野台地の南西辺約1万坪の広さで展開していた。上屋敷に隣接する台地下には、当主の別邸である中屋敷、親族及び陪臣が居住した下屋敷地を拝領していた。

調査地は、上屋敷跡(石川県立美術館付近)から中屋敷跡(市立中村記念美術館付近)にかけての小立野台地の斜面周辺で、「美術の小径」の西側にあたり、上屋敷跡の裏手南西辺、小立野台地崖上端部を縁取って築造されている堀跡および門跡、門跡から中屋敷方向へと下る坂道、および坂道に付属する2カ所の石垣を対象に、発掘調査および測量調査を実施した。

#### 本多家上屋敷堀跡・門跡

上屋敷跡裏手(南西側)の斜面上端に沿って、長さ約100mの堀跡基礎石積が残る。発掘調査により幅約1.5m、高さ約1.2~2mの断面が三味線のバチ形をした石積であることを確認した。石材の大部分は野石(川原石)だが、門跡と考えられる部分では、東西から来た石積みが切れ、赤戸室石を算木積みになっている。また、門跡から中屋敷方向へ下る道跡へと続く2段の石段が見つまっている。

門跡は、上屋敷の中でも本多家当主の「御居間」などに近い場所にあることから、当主の私的な空間と中屋敷とを直接結んでいた出入口と推測される。

#### 本多家上屋敷と中屋敷を結ぶ坂道と石垣

門跡から中屋敷方面へ下る道跡①と、道跡②を確認した。道跡①は、幅1.5~2mのつづら折りの坂道で、粘土で造成されて路面は堅く締る。道の法面は、高さ約3.6m、長さ約15mの上段石垣と、高さ約1.8m、長さ約10mの「く」の字に屈曲した下段石垣で保護され、出角部分には戸室石を算木積みしている。また、下段石垣では中央の石に刻印がみられる。道跡①は、「裏門」から中屋敷へ下る坂道(現在の美術の小径付近にあたる)に合流していたと考えられる。道跡②は、幅約2~3mの緩やかな坂道で、道跡①の屈曲部からはじまり、中屋敷北西角の西外惣構土居跡へと下る。

文久2年(1862)の『上屋鋪御館惣絵図』(藩老本多蔵品館蔵)には、現在の形に近い堀および門、そして石垣の描写がみられる。この絵図では、門跡からの坂道が道跡①の屈曲部を経て道跡②へ下るように描かれる。中屋敷へはこの道と「裏門」からの道のほか、2本の道がみらる。

玉川図書館が所蔵する年代不詳(文久絵図よりも古いと考えられる)の『本多家屋敷図』では、石垣と門、坂道が描写されているが、門は現在とは逆方向に開いており、門付近の構造物が大きく改修されたことがわかる。この絵図では、道跡①とみられる道が描かれており、途中には「不寝番所」が描かれている。



道跡①と上・下段石垣



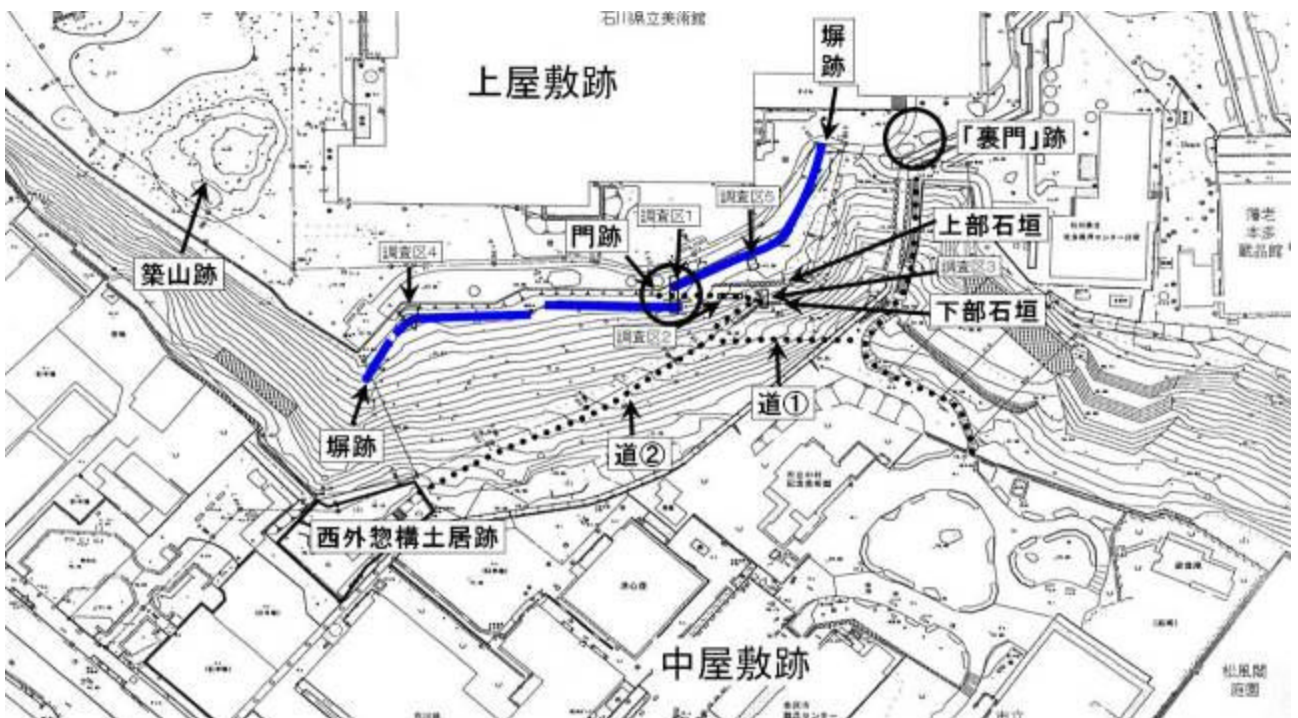
調査区 1(門跡)



調査区 4(塀跡西端部付近隅石)



塀跡石積



本多氏屋敷跡調査概要図

わくなみ つつちようずえんしょうぐらあと  
C. 涌波遺跡（土清水塩硝蔵跡）

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

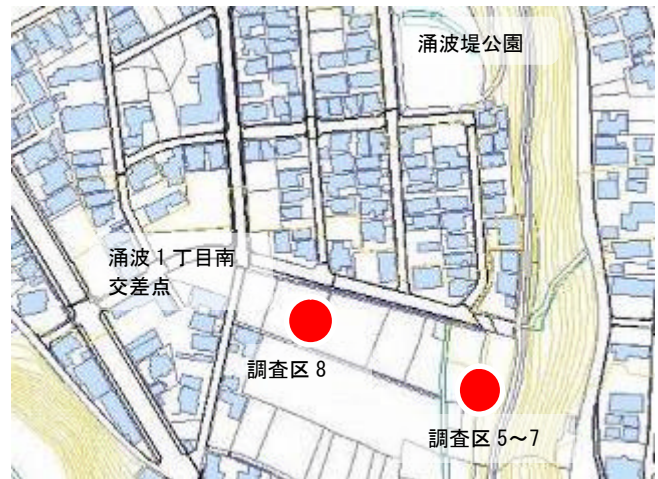
所在地：金沢市涌波町癸地内  
北緯 36° 31′ 53″  
東経 136° 41′ 18″

調査面積：100 m<sup>2</sup>

種別：塩硝蔵跡

主な時代：江戸

担当：谷口 主任主事



### 遺跡の概要

土清水塩硝蔵は、藩政期において加賀藩が設立した黒色火薬製造施設である。現在の金沢市涌波町、涌波1丁目、土清水1丁目地内に所在し、敷地面積は幕末時点で11万m<sup>2</sup>を超えると推定されている。敷地内には加賀藩領内で生産された黒色火薬の原材料が集積され、敷地内を流れる辰巳用水の水流を利用して黒色火薬への加工が行われていた。

土清水塩硝蔵は加賀藩の軍事機密に直結するため、残された文献史料も数量に限られている。その中で藩政期当時の姿を描いた絵図類は以下の4点が確認されている。

- |                 |              |              |
|-----------------|--------------|--------------|
| 絵図 A 「辰巳用水絵図」   | 文化 6 年(1809) | (石川県立歴史博物館蔵) |
| 絵図 B 「塩硝御蔵御絵図」  | 天保 3 年(1832) | (金沢市立玉川図書館蔵) |
| 絵図 C 「辰巳用水長巻図」  | 天保 5 年(1834) | (石川県立歴史博物館蔵) |
| 絵図 D 「土清水製薬所絵図」 | 幕末～明治初期      | (石川県立歴史博物館蔵) |

このうち、絵図 D は土清水塩硝蔵が廃止される直前の様子を 1/600 の精度で描いた平面図で、塩硝蔵内の施設状況を良く示す好史料である。同史料には、塩硝蔵の敷地は土居と堀によって区画され、中枢部にさらに堀を廻らせている状況が描かれている。中枢部内には搗蔵、縮具所、調合所、硝石御土蔵 2 棟などの諸施設が描かれており、この場で火薬の製造が行われていたことが示されている。敷地内の西側には役所と記されている施設が描かれており、ここでは管理・事務処理等が行われていたと考えられる。

発掘調査は平成 19 年度から実施しており、本年度は第 3 次調査にあたる。本年度は涌波町癸地内の梅林及び畑地で計 4 箇所の調査区を設け、発掘調査を実施した。なお、平成 19 年度の第 1 次調査及び平成 20 年度の第 2 次調査の概要については当該年度の金沢市埋蔵文化財調査年報を参照願いたい。

【平成 19 年度金沢市埋蔵文化財調査年報 [画面用 \(PDF 0.99MB\)](#) [印刷用 \(PDF 7.05MB\)](#)】

【平成 20 年度金沢市埋蔵文化財調査年報 [画面用 \(PDF 1.89MB\)](#) [印刷用 \(PDF 14.73MB\)](#)】

梅林での調査は、黒色火薬の原料を粉末に加工していた施設である搗蔵の痕跡を確認する目的で実施し、計 3 箇所の調査区を設けた。搗蔵はその名のとおり内部で「搗く」作業を行っていた施設であると見られる。絵図 A・C・D には辰巳用水沿いに建つ搗蔵と搗蔵内部への導水路が描かれており、搗蔵内部では辰巳用水の水流を引き込んで水車等を回しその動力を利用して「搗く」工程が行われていたと見ることができる。黒色火薬の製造工程の一つに「原材料を粉末にする」工程があり、搗蔵ではその工程が行われていた可能性が高い。

調査の結果、調査区 5 より 2 列平行の石列遺構及び円形石列遺構が確認された。平行石列遺構の石列間には僅かながら砂泥の堆積が見られることから、辰巳用水から引き込まれた導水路の痕跡と思われる。石列は 1 段のみの検出であり、上部は塩硝蔵廃止時もしくはその後の開墾時に削平された可能性がある。円形石列遺構は 20 cm 前後の河原石を円形に集積し中央部に直径約 0.5m の円形の空間を設

けたもので、調査区内で計3基確認された。集石の外周は石の移動を防ぐ目的で砂利混じりの黄褐色土でつき固められている。

これらの遺構は搗蔵の痕跡と考えられ、平行石列遺構は搗蔵内部を通る導水路の痕跡、円形石列遺構は何らかの円形施設を据えた痕跡である可能性が高い。近世の水車施設の例を参照するならば、導水路に通した水流を利用して水車を回転させ、その回転運動により杵を上下させ、杵の下に据えた搗臼で材料を粉末に加工したと想定される。

搗蔵内の水路跡が確認されたことで、塩硝蔵では辰巳用水の水流を利用して火薬の製造が行われていたことが明らかとなった。搗蔵の位置する平坦面の南側には辰巳用水の幅を細くさせることで水流の速度を上げている箇所がある。これは搗蔵内部に速度を上げた水流を引き込むことで水車の回転を増加させる目的であった可能性がある。いずれにせよ、塩硝蔵と辰巳用水との深い関係性が明らかになったといえよう。

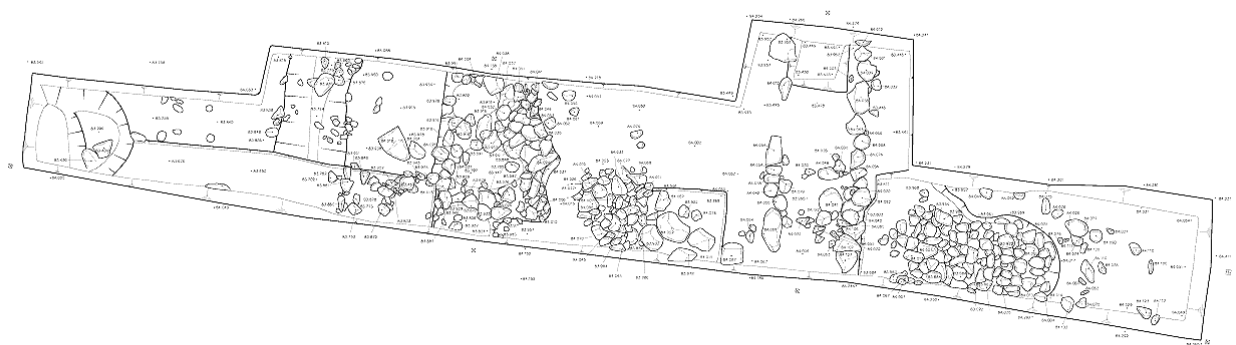
また、搗蔵の造成にあたり、元々の丘陵斜面に土盛りを行うことで平坦面を造成しその上に搗蔵を建設したことが判明した。土盛りは黄褐色土のキメの細かい土に砂利を混ぜ込み堅くつき固められており、搗蔵の重量に見合った造成がなされたことを示している。

調査区6・7区は搗蔵への導水路の検出を目的として設定したものの、平坦面造成の痕跡を確認したのみで明確な遺構は確認されなかった。

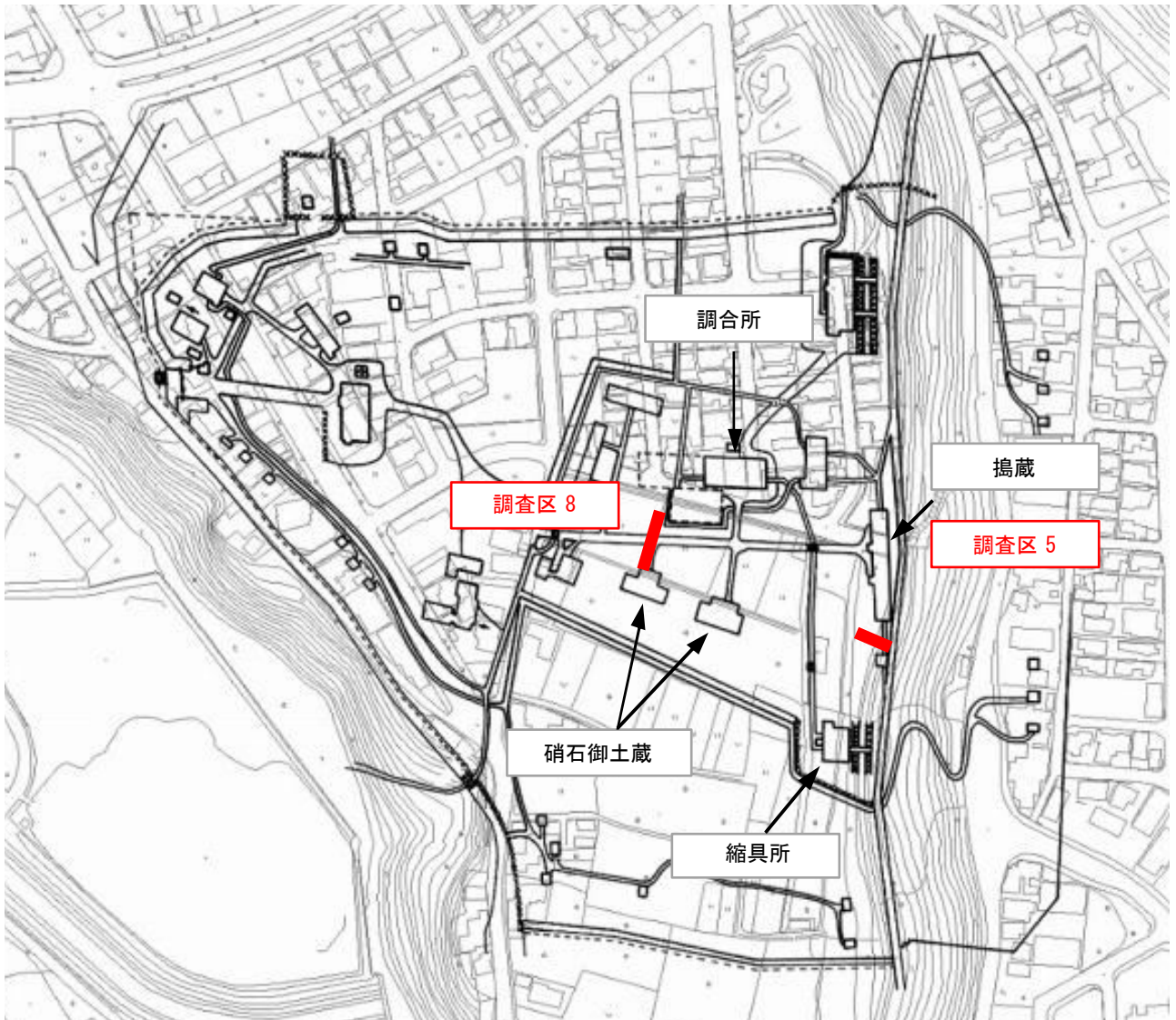
調査区8は中枢部を通る道路の痕跡の検出を目的として畑地境界の畦上に設定した。調査の結果、幅約1.8m、高さ約0.4mの規模で道路跡が確認された。道路跡は砂利を混ぜた黄褐色土を台形状に盛り上げた構造で、黄褐色土は堅くつき固められている。検出した道路跡の位置は絵図Dに描かれる道路とほぼ一致し、塩硝蔵中枢部の入口から搗蔵までを東西に縦貫する主要道として描かれ、調合所や硝石御土蔵といった各施設と脇道によって連結している。絵図Cにも同様の道路が描かれている。ただし、絵図Dに見られる道路幅は3間(5.4m)前後であり、物資の運搬を行う幹線道という点から考慮しても本来の道路幅は検出遺構よりも幅広であった可能性が高く、塩硝蔵廃止以降に行われた開墾時に破壊された可能性が高い。

調査区5～7からはほとんど遺物が出土しなかったが、調査区8からは昨年度までの調査と同様に屋根瓦が出土している。種類は平瓦、丸瓦、軒平瓦、軒丸瓦を確認しており、昨年度までの調査で検出した硝石御土蔵の屋根に葺かれていた瓦が投棄されたものと見られる。また、軒平瓦には梅鉢紋の意匠を持つものが数点含まれている。

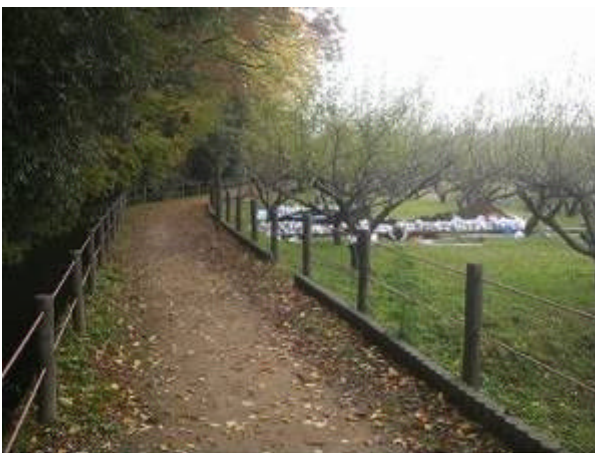
江戸時代の黒色火薬製造所である土清水塩硝蔵は全国的に見ても希有な文化遺産である。今後も発掘調査を含めたさらなる詳細調査を実施して様々なデータを収集していきたい。



調査区5平面図



土清水塩硝蔵主要施設と調査位置図  
 (絵図 D のトレースと都市計画図の重ね合わせ図)



調査区 5 と辰巳用水の位置関係



調査区 5 全景





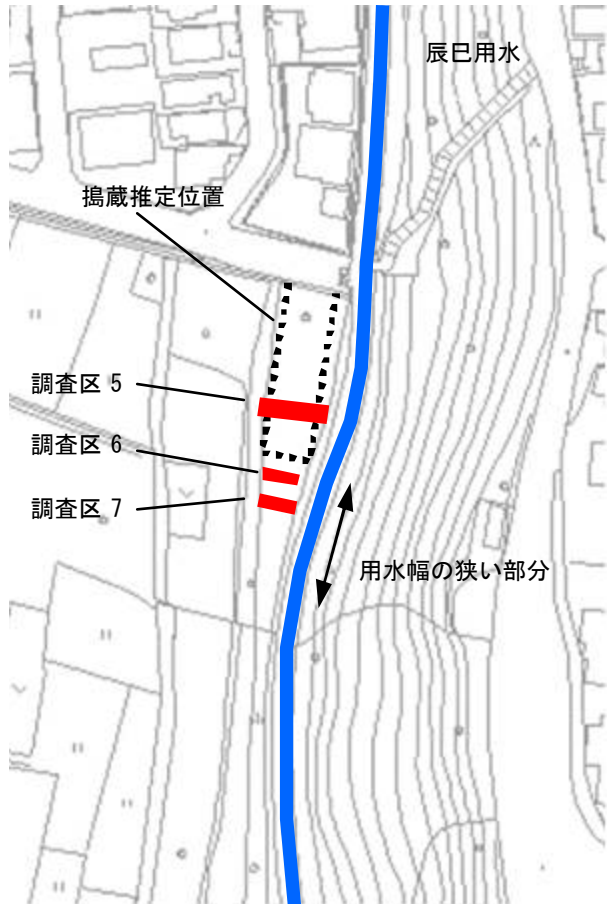
平行石列遺構と円形石列遺構



平行石列遺構



円形石列遺構



搦蔵の推定位置と調査区位置



調査区 8 道路跡

にしそとそうがまえあと ほんだまち  
D. 西外惣構跡（本多町三丁目地点）

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市本多町三丁目地内

北緯 36° 33′ 36″

東経 136° 39′ 36″

調査面積：18 m<sup>2</sup>

種別：惣構跡

主な時代：江戸

担当：庄田 主任主事



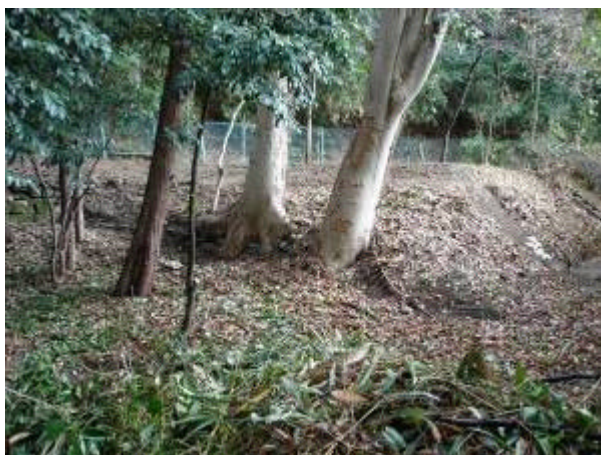
### 遺跡の概要

金沢城惣構跡は、金沢城を中心として城下町を取り囲んだ東西それぞれ二重の惣構で、おもに堀と土居の遺構からなる。平成 20 年 12 月 26 日には、おもに公有地として管理されている堀跡と土居跡、虎口、内道を金沢市史跡として指定している。

本調査地は、金沢城南東の西外惣構の起点にあたる本多町 3 丁目地内にあって、堀跡である辰巳用水分流に沿い小立野台地南裾部に比高差約 2m（水路南側の平坦部から）、幅約 16m、長さ約 20m の土居状地形がみられることから、城下町内の数少ない惣構の土居遺構であると考えられている地点である。隣接する堀跡と共に金沢市史跡の指定地となっている。調査地周辺は、かつて加賀八家本多家家中町となっており、惣構の起点となる辰巳用水分流は、小立野台地南側に深く切り込んだ谷地形を流下したのち、台地裾部に沿って東に流れて調査地点付近の堀に達していた。西外惣構の調査区西側には、豊屋橋と称される虎口があった。

調査はこの細長い土盛を横断する形で、北東—南西方向に幅 2m×長さ 9m の試掘坑を掘削した。調査の結果、現在土居に見える地形のうち、上部約 1m については、土層下部において、近代のタイル片等がまとまって出土したため近代以降の盛土であることが判明した。近世惣構遺構としての土居の土層は、固結した砂による盛土で、周囲平坦面から比高差約 10cm が残っていた。その上部は削平されており、近代以降、上面に住宅が建っていたと考えられる。

また、本調査区から小立野台地上の本多氏屋敷跡（本多家上屋敷跡）方向へ西に登る緩やかな坂道状の平坦面がみられるが、惣構遺構との関連性は不明である。



土居跡全景



土居跡土層断面

かがはつかほしよ よこやまけほしよ  
E. 加賀八家墓所 (横山家墓所)

〈遺跡番号 - 〉

所在地：金沢市野田町野田山 1

北緯 36° 31' 51"

東経 136° 40' 02"

調査面積：43 m<sup>2</sup>

種別：墳墓

主な時代：江戸

担当：庄田 主任主事



### 遺跡の概要

加賀藩では、貞享3年(1686)からの職制改革により、元禄3年(1690)以後、藩の重役である年寄衆を八つの家柄(八家)が代々世襲し、月交代で藩の執政を担当、重要事項の決定には合議制を敷き藩政の運営をした。横山家当主は、二代長知のときに3万石の知行を得、慶長10年(1605)に年寄衆とされて以降、代々藩の中枢にあつて執政にあたり、六代任風の時に八家に列せられた。

野田山地内の横山家墓所は北側山腹の中割地区にあり、約5,000 m<sup>2</sup>の敷地に二代長知以降の当主墓(13基)および三代以降の室墓(12基)、子女墓、供養塔等併せて64基が築かれている。墓所は北から南に傾斜する斜面を切岸・盛土によりおよそ6段のひな壇状平坦面としているが、東西中央付近が浅い谷地形となっているため、上から3段目以下は、谷部に向かって東西方向から階段状に下がる。野田山頂付近にある前田家墓所に登る主要墓道からは、二代長知墓および三代康玄墓に向かってそれぞれ等高線に沿った墓道(上段墓道・下段墓道)が平行にのび、康玄墓西側と、谷部においてそれぞれ西側上下連絡墓道・東側上下連絡墓道により上下に連絡されている。当主および当主室墓は、長方形基壇上に二段築造の上円下方墳形の墳丘(多くは上円部の形態を失っている)築き、墳丘前面裾に方形の張り出しをもつ形態が基本となるが、基壇を共有するものや、現況では基壇をもたないもの、墳丘形態が不明確なものもみられる。子女等の墳墓は、方墳が基本となる。墳丘前面裾の張り出しの位置および横山家所蔵の墓所図によると、当主及び当主室墓は、二代長知から七代貴林・同室墓までは全て西側を向いており、八代隆達墓は西、同室墓は隆達と向かい合う東を向き、九代隆従・同室墓から十三代隆平までは墓所最上段で北を向き、十四代以降は一段下がって南を向く。

発掘調査の対象としたのは、二代長知の嫡子で正保2年(1645)に没した三代康玄墓およびその室墓(調査区1,4)、正徳5年(1715)に没した七代貴林室(六代任風娘)墓(調査区2,3)、横山家所蔵の絵図に「御帳附小屋」と記される地点(調査区5)である。

康玄・同室墓は、東西約16m、南北約17mの長方形基壇の後方に、約6m四方の方墳を築いており、同じ基壇内に南北に並ぶ形で山(南)側に康玄墓、裾(北)側に同室墓を併置している。墳丘はやや形が乱れているが、方墳の上に円墳をのせた二段築造とし、墳丘前面裾部には方形の張り出しが設けられている。康玄・同室墓ともに墓標は見られない。

調査区1は、康玄室墓西前面基壇部から西側上下連絡道にかけて設定した東西方向の試掘坑で、ここでは西側上下連絡墓道と康玄・同室墓基壇との間に幅約1.2m、深さ約50cmの区画溝を確認した。この区画溝は現在ほぼ完全に土砂で埋没した状態になっているが、康玄・同室墓基壇では、南側から東側にかけてのL字の区画溝が浅い窪みとして地上部に残されており、もともとは基壇周囲を溝が囲んでいたと考えられる。また、康玄・同室墓の長方形基壇の北西部は盛土で造成されていることを確認した。

調査区 4は、康玄室墓西前面基壇部に設定した南北方向の試掘坑で、これにより康玄墓と同室墓の基壇は、同一の盛土で造成されていること、盛土造成の際に、周囲を堤状に盛り上げてから盛土していることを確認した。

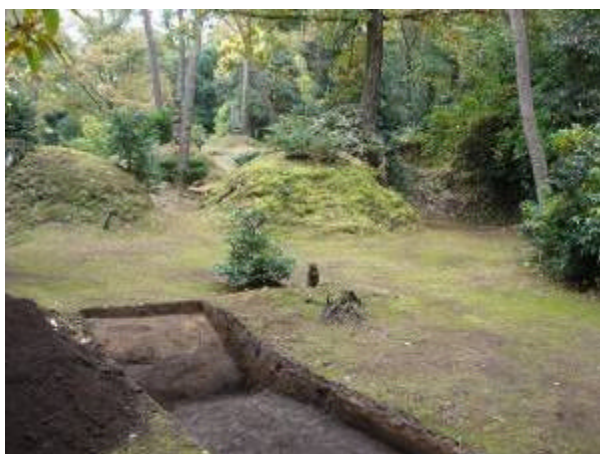
貴林室墓は、東西約 15m、南北約 9m の長方形基壇の後方に、約 6m 四方の平面形が崩れた方墳を盛り上げている。方墳上には笠塔婆形の墓石が設置されている。

調査区 2 は、貴林室墓南辺の区画溝に設定した試掘坑で、これにより溝幅は構築当初の幅約 1.9m をほぼ維持しているものの、深さは約 1.2m のうち約 90 cm 埋没していること、長方形基壇山（南）側は、切土により造成されていることを確認した。区画溝内からは少量の土師器皿が出土した。

調査区 3 は、貴林室墓東辺の区画溝に設定した試掘坑で、これにより溝幅は構築当初の幅約 1.9m をほぼ維持しているものの深さは約 1.2m のうち約 60 cm 埋没していること、長方形基壇東側は切土により造成されていることを確認した。

貴林室墓は、斜面を切り土して基壇を造成しており、上段からの地下水のため調査区 2,3 では絶えず湧水がみられた。横山家墓所における基壇周囲の区画溝は、墓域の結界を示す役割の他に、湧水を集めて墓所外に排出し、墓域内の地盤を安定させる役割も持っているのであろう。実際、上下方向の区画溝は各墓で独立しておらず、縦に連続することからもそうした機能を持たせていたと考えられる。

調査区 5 は墓所図に「御帳附小屋」と記される箇所を設定した試掘坑である。下段墓道と西側上下連絡墓道が交差する北西角地で、三代康玄墓の正面北側にあたり、現在も墓域としては使用されず平坦な空地となっている。原地形の地山は斜面となっており、盛土を行って奥行 6m 程度の平坦地を造成して



調査区 1 と康玄・同室墓



調査区 2・3 と貴林室墓



調査区 2(貴林室墓南辺区画溝)



調査区 3(貴林室墓東辺区画溝)

いる。平坦面では、墓道近くに焼土面（たき火跡か）、墓道からみて裏手側に廃棄土坑を確認しており、廃棄土坑からは、土師器皿、陶磁器（青磁皿、青磁香炉等）、煙管等が出土した。柱穴等の明確な建物跡は確認できなかったため、建物構造については依然検討課題である。



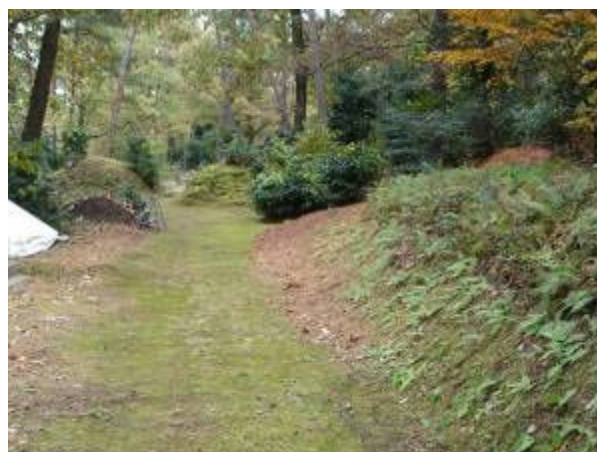
調査区 4(基壇盛土)



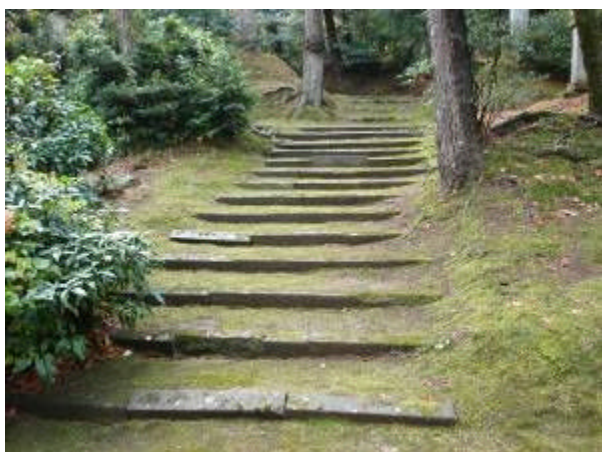
調査区 5(御帳附小屋推定地)



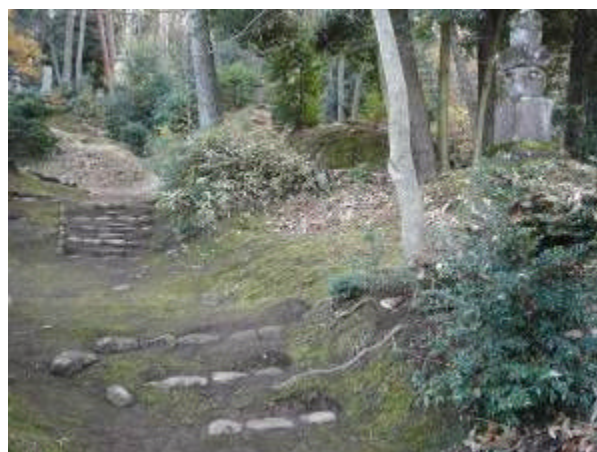
上段墓道と長知墓(奥)



下段墓道と康玄・同室墓



西側上下連絡墓道



東側上下連絡墓道



## 2. 埋蔵文化財分布調査事業

### (1) 平成21年度埋蔵文化財分布調査の概要

金沢市では、公共事業に関する土木工事や建設工事等および民間の開発行為や農地転用の際に、事前に遺跡地図に基づく図面調査、実際の開発予定地における現地踏査、試掘確認調査等を実施し、埋蔵文化財の有無を確認している。

今年度は市施工の公共事業19件、民間の開発行為・農地転用25件について、埋蔵文化財の有無を調査した。以下はその一覧である。

#### ■ 公共事業に係る埋蔵文化財調査一覧

ID	場 所	事 業 名	担 当 課	回 答 日	面 積	調 査 方 法	有 無	対 応
1	千木町一丁目125	千坂小学校校舎改築	教育総務課	6月12日	500㎡	試掘	無	支障なし
2	南森本町イ111	森本小学校校舎改築	教育総務課	6月17日	500㎡	試掘	無	支障なし
3	山の上町28地内(汐見坂緑地)	山の上町防火水槽設置工事	消防総務課	6月25日	50㎡	踏査	無	支障なし
4	福島町ハ地内	小野町線道路改良	道路建設課	7月1日	1,600㎡	踏査	無	支障なし
5	鳴和町イ地内	鳴和町線道路改良	道路建設課	7月1日	240㎡	踏査	無	支障なし
6	箆山町ヘ地内	土清水・上辰巳線道路改良	道路建設課	7月1日	1,400㎡	踏査	無	支障なし
7	高尾町ウ地内	倉ヶ岳線道路改良	道路建設課	7月1日	120㎡	踏査	無	支障なし
8	小豆沢町地内(放牧場跡地)	キゴ山再整備	生涯学習課	7月7日	未定	踏査	無	支障なし
9	桐山町ウ23ほか	作業道宮野4号線開設工事	森林再生課	8月13日	1,500㎡	試掘・踏査	無	支障なし
10	柚木町地内	車・小嶺線道路改良	道路建設課	9月11日	750㎡	踏査	無	支障なし
11	藤江南一丁目地内	藤江南一丁目地内道路改良	道路建設課	9月11日	240㎡	踏査	無	支障なし
12	岩出町地内	岩出町地内道路改良	道路建設課	9月11日	420㎡	踏査	無	支障なし
13	北森本町ル地内	北森本地内道路改良	道路建設課	9月11日	330㎡	踏査	無	支障なし
14	大友町、直江町、近岡町地内	副都心北部大友土地区画整理	市街地再生課	10月13日	10.6ha	試掘	有	H22年度発掘 (大友A遺跡、大友D遺跡、大友E遺跡、大友F遺跡)
15	高柳町10ほか	小坂11号高柳町線道路改良	道路建設課	11月4日	900㎡	試掘	無	支障なし
16	北安江二丁目地内	疋田上荒屋線道路築造	道路建設課	11月4日	1,300㎡	踏査	無	支障なし
17	小立野四丁目7-7	小立野小学校校舎建替	教育総務課	11月18日	7,321㎡	試掘	有	H22年度発掘 (天徳院跡前田家墓所)
18	東山一丁目292-3	東山ひがし防災拠点広場整備工事	歴史建造物整備課	12月16日	128㎡	立会	有	立会調査、計画変更により保存 (東山一丁目水溜跡)
19	近岡町地内、大友町地内	海側環状道路建設	道路建設課	3月31日	10,000㎡	試掘	有	H22年度発掘 (大友A遺跡、直江中遺跡に隣接)

■ 民間の開発行為に係る埋蔵文化財調査一覧

ID	場 所	行 為 の 内 容	申 請 日	回 答 日	面 積	調 査 方 法	結 果	対 応
1	荒屋町132ほか	駐車場造成	4月10日	4月24日	1,329㎡	試掘	無	支障なし
2	松村七丁目64・65-2の一部	分譲宅地造成	4月15日	4月24日	948㎡	試掘	有	H21年度発掘 (松村A遺跡)
3	西泉三丁目22～25	店舗建設	4月15日	5月8日	2,904㎡	試掘	無	支障なし
4	円光寺本町95-1ほか	分譲宅地造成	6月5日	6月12日	987㎡	試掘	無	支障なし
5	高柳町二字71～74ほか	工房・資材置場建設	6月11日	6月17日	3,197㎡	試掘	無	支障なし
6	高柳町二字19-1	店舗建設	7月24日	7月31日	2,800㎡	試掘	無	支障なし
7	四十万町北ヌ13-1	分譲宅地造成	7月27日	8月10日	21,731㎡	試掘	無	支障なし
8	中屋一丁目48-1・48-2	個人住宅建設	8月11日	8月20日	449㎡	試掘	有	保護層にて保存 (中屋ヘシタ遺跡)
9	八日市五丁目299ほか	共同住宅建設	8月21日	8月27日	866㎡	試掘	無	支障なし
10	八日市五丁目331・332	共同住宅建設	8月21日	8月27日	707㎡	試掘	無	支障なし
11	南新保町ハ15ほか	分譲宅地造成	7月17日	9月17日	1,588㎡	試掘	無	支障なし
12	松村三丁目417・418・448・449	店舗建設	9月10日	9月24日	865㎡	図面	有	立会調査 (松村高見遺跡)
13	荒屋一丁目13ほか	駐車場造成	9月16日	9月29日	1,441㎡	試掘	無	支障なし
14	近岡町207～209	分譲宅地造成	7月17日	10月2日	2,151㎡	試掘	無	支障なし
15	増泉五丁目58-1	共同住宅建設	10月6日	10月6日	668㎡	試掘	無	支障なし
16	上荒屋四丁目203	個人住宅建設	5月15日	10月15日	266㎡	試掘	無	支障なし
17	藤江北二丁目19-1ほか	分譲宅地造成	10月15日	10月23日	1,424㎡	試掘	有	行為中止 (藤江B遺跡)
18	上安原町407-2	分譲宅地造成	10月26日	10月29日	180㎡	試掘	無	支障なし
19	大桑町中平87	無線基地局設置	11月9日	12月3日	4㎡	試掘	無	支障なし
20	窪五丁目618～621	共同住宅建築	12月3日	12月15日	1,181㎡	試掘	無	支障なし
21	木曳野土地区画整理地内 40街区1～5、21～26	分譲住宅建設	11月13日	12月22日	1,699㎡	試掘	有	保護層にて保存 (畷田・寺中遺跡)
22	木曳野土地区画整理地内 38街区17・18・21・22	老人福祉施設建設	1月19日	1月25日	764㎡	試掘	有	H22年度発掘 (畷田・寺中遺跡)
23	畷田中二丁目146	共同住宅建設	2月23日	2月25日	552㎡	試掘	無	支障なし
24	桜田町二丁目140～142	共同住宅建設	2月26日	3月5日	773㎡	試掘	無	支障なし
25	寺地二丁目44	個人住宅建設	3月19日	3月30日	106㎡	試掘	無	支障なし



## (2) 副都心北部大友土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財試掘確認調査結果報告

平成 20 年 3 月、市街地再生課より標記事業の試掘・確認調査依頼が出された。同年 3 月 4 日(表・図中の丸数字地点)、9 月 24 日、25 日、28 日、29 日、10 月 4 日の 6 日間にわたり掘削機による試掘調査を実施した。調査結果は、周知の埋蔵文化財包蔵地である大友 A 遺跡(古代)の範囲を確認し、新たに大友 D 遺跡(弥生・古代)、大友 E 遺跡(古墳・古代)、大友 F 遺跡(弥生・古代)の 3 箇所の遺跡を発見した。本調査は平成 22～24 年度に実施予定である。なお、各試掘調査地点の詳細は表にまとめた。番号は試掘地点を示し、図中のそれと一致する。－は地山までの深さの未確認のもの、cm は地山までの深さ、×は遺構・遺物が発見されなかったことを示す。

### ■ 試掘地点の状況

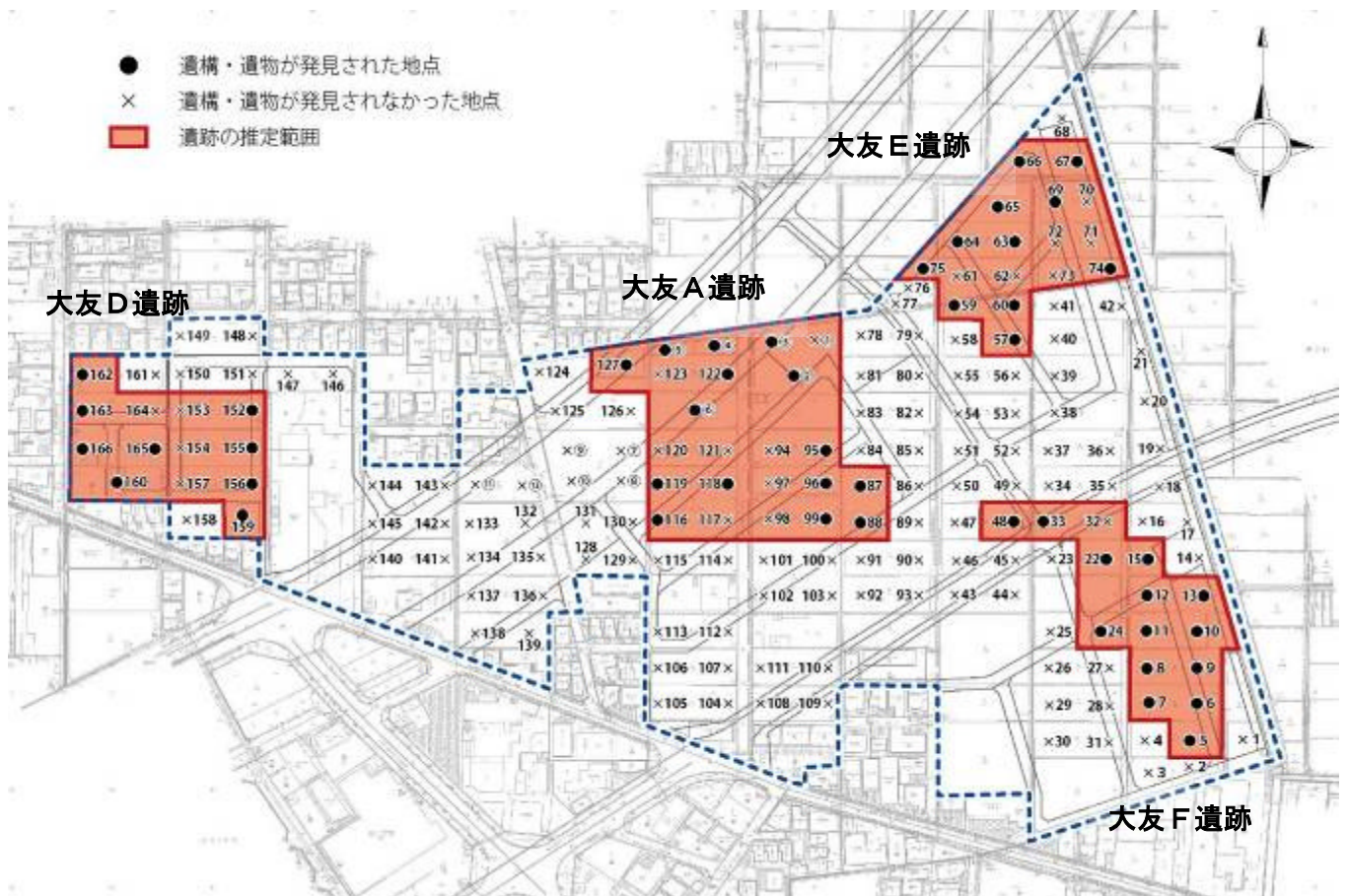
番号	cm	遺構	遺物	番号	cm	遺構	遺物	番号	cm	遺構	遺物
1	-	×	×	41	-	×	×	81	20	×	×
2	25	×	×	42	-	×	×	82	30	×	×
3	30	×	×	43	35	×	×	83	20	×	×
4	30	×	×	44	50	×	×	84	30	×	×
5	20	小穴	×	45	20	×	×	85	40	×	×
6	20	小穴	緑色凝灰岩	46	20	×	×	86	20	×	×
7	15	×	弥生土器	47	20	×	×	87	-	溝?	×
8	20	小穴	土師器	48	20	小穴	弥生土器	88	25	遺構?	土師器
9	25	溝	須恵器 土師器	49	25	×	×	89	-	×	×
10	25	小穴	×	50	25	×	×	90	-	×	×
11	20	×	×	51	35	×	須恵器	91	25	×	×
12	20	小穴	土師器	52	20	×	×	92	25	×	×
13	20	溝?	須恵器 土師器	53	20	×	×	93	35	×	×
14	25	×	×	54	40	×	×	94	30	×	×
15	25	小穴 溝	土師器	55	-	×	×	95	30	遺構?	土師器
16	-	×	×	56	-	×	×	96	20	×	×
17	-	×	×	57	-	溝?	土師器	97	25	×	×
18	-	×	×	58	-	×	×	98	25	×	×
19	-	×	×	59	-	土器	×	99	-	×	須恵器 土師器
20	30	×	×	60	-	溝?	土師器	100	-	×	×
21	40	×	×	61	-	溝?	須恵器	101	-	×	×
22	30	×	須恵器	62	-	×	×	102	-	×	×
23	35	×	×	63	30	溝	須恵器	103	-	×	×
24	55	溝	土師器	64	-	土坑	土師器	104	-	×	×
25	40	×	×	65	-	土坑	須恵器 土師器	105	-	×	×
26	30	×	×	66	-	遺構	須恵器 土師器	106	-	×	×
27	35	×	×	67	-	遺構	須恵器 土師器	107	-	×	×
28	25	×	×	68	-	×	須恵器	108	-	×	×
29	20	×	×	69	-	遺構?	×	109	-	×	×
30	30	×	×	70	-	×	須恵器	110	-	×	×
31	20	×	×	71	-	×	須恵器 土師器	111	-	×	×
32	30	包含層	×	72	-	遺構	須恵器 土師器	112	-	×	×
33	30	炉?	須恵器 土師器	73	-	×	×	113	-	×	×
34	30	×	×	74	-	×	須恵器	114	25	×	×
35	30	×	×	75	-	溝	須恵器 土師器	115	30	×	×
36		×	×	76	-	×	×	116	20	小穴	×
37	35	×	×	77	-	×	×	117	20	×	×
38	-	土器	×	78	35	×	×	118	25	小穴	×
39	-	×	×	79	-	×	×	119	30	小穴	×
40	-	×	×	80	-	×	×	120	-	×	×

■ 試掘地点の状況

番号	cm	遺構	遺物
121	-	×	×
122	-	遺構?	土師器
123	-	×	×
124	-	×	×
125	-	×	×
126	-	×	×
127	-	遺構?	土師器
128	-	×	×
129	-	×	×
130	-	×	×
131	-	×	×
132	25	×	×
133	20	×	×
134	25	×	×
135	40	×	×
136	30	×	×
137	25	×	×
138	95	×	×
139	120	×	×
140	35	×	×

番号	cm	遺構	遺物
141	30	×	×
142	25	×	×
143	20	×	×
144	20	×	×
145	20	×	×
146	30	×	×
147	20	×	×
148	20	×	×
149	25	×	×
150	45	×	×
151	20	×	×
152	-	遺構?	弥生土器
153	30	×	×
154	20	×	×
155	20	×	須恵器
156	-	×	土師器
157	-	×	×
158	35	×	×
159	25	小穴	弥生土器
160	70	×	×

番号	cm	遺構	遺物
161	25	×	×
162	-	遺構?	須恵器
163	-	溝	弥生土器
164	30	×	×
165	30	小穴	×
166		溝	弥生土器
①	30	×	×
②	30	小穴	×
③	20	溝	×
④	50	小穴 溝	×
⑤	-	旧河川	×
⑥	-	小穴 溝	×
⑦	90	×	×
⑧	100	×	×
⑨	70	×	×
⑩	90	×	×
⑪	100	×	×
⑫	100	×	×



試掘箇所と遺跡の範囲

ひがしやまいっちょうめみずためあと  
(3) 東山一丁目水溜跡の測量成果報告

調査地である東山1丁目292-3は、東山ひがし重伝建地区の南西端にあたり、国道359号線「東山茶屋前」交差点から重伝建地区に至る道路に面し、「ひがしの広見」に隣接する。当該地において、歴史建造物整備課施工の防災拠点広場整備工事に伴い防火水槽埋設工事を行ったところ、水溜遺構と考えられる石積が露出したため、平成22年1月12・13日に記録のための測量等を実施した。調査面積は20㎡である。



文政3年(1820年)の『浅野川茶屋町創立之図』(石川県立図書館蔵)によると、当該地は「水溜」となっている。

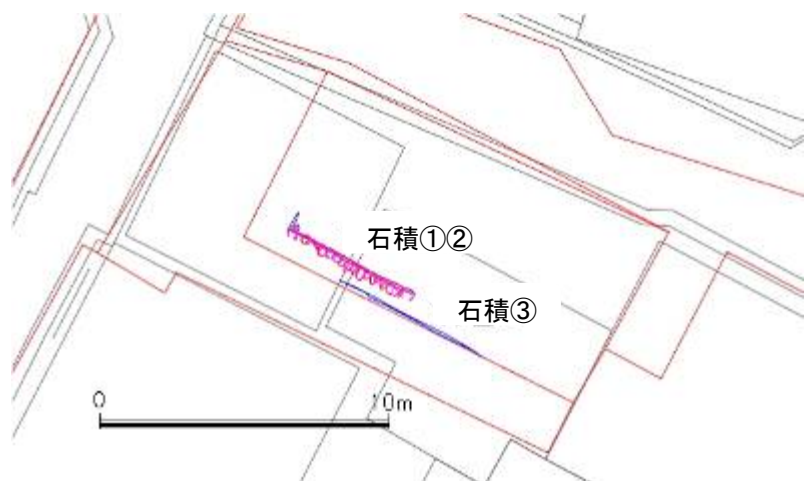
また、文政13年(1830年)成立の『金沢測量図籍』巻二十五(石川県立図書館蔵)には、南北三間五三(約6.42m)×東西七間(約12.6m)の水溜と思われる描写が見られる。

掘削範囲の南面および西面南隅に、地表下約2mの深さから立ち上がる二段築造(複断面)の石積を確認した。石積みは確認範囲でL字形をしており、長方形の「水溜」の擁壁の一部と考えられる。北面および東面となる石積は、工事範囲外となり、市道や隣家の保護のため確認していない。

石積は、枕形の野石(川原石)を使用し、1列ずつ上面を揃える布積みとしている。石面調整は、欠きとりを突出部のみに留めて自然面を多く残すことから、19世紀前半代の石積みと推定される。石の大きさは、最下列が大きく上の列にいくにつれて小さくなる。水溜底面の大部分は、鉄筋コンクリート製の旧防火水槽設置時の掘削により失われているが、防水のための粘土が部分的に残る。

石積みは、下段が高さ約70cm、上段が高さ約50cmで、上端面がきれいに揃うことから地表までの残り約80cmは土坡(土手)の法面だったと推定される。長さは下段南面(石積①)で約4.8m、下段西面(石積②)で約60cm、上段南面(石積③)で約5.5mを確認した。石積②の北側と石積③の東側は工事範囲外へ伸び、他は失われている。

下段石積(石積①、②)については、実測および平板測量により平面図および断面図を作成し、デジタルカメラにより立面写真を撮影した。現地調査終了後、レンズ歪みを補正した立面写真から立面図を作成した。上段石積み(石積③)については、平板測量により平面的な位置関係を記録した。平面図は、公共測量規定に沿った座標に併せ作成した。これにより石積③の平面的位置について、『金沢測量図籍』の記載と一致することが、現代の地図との合成図により確認できた。



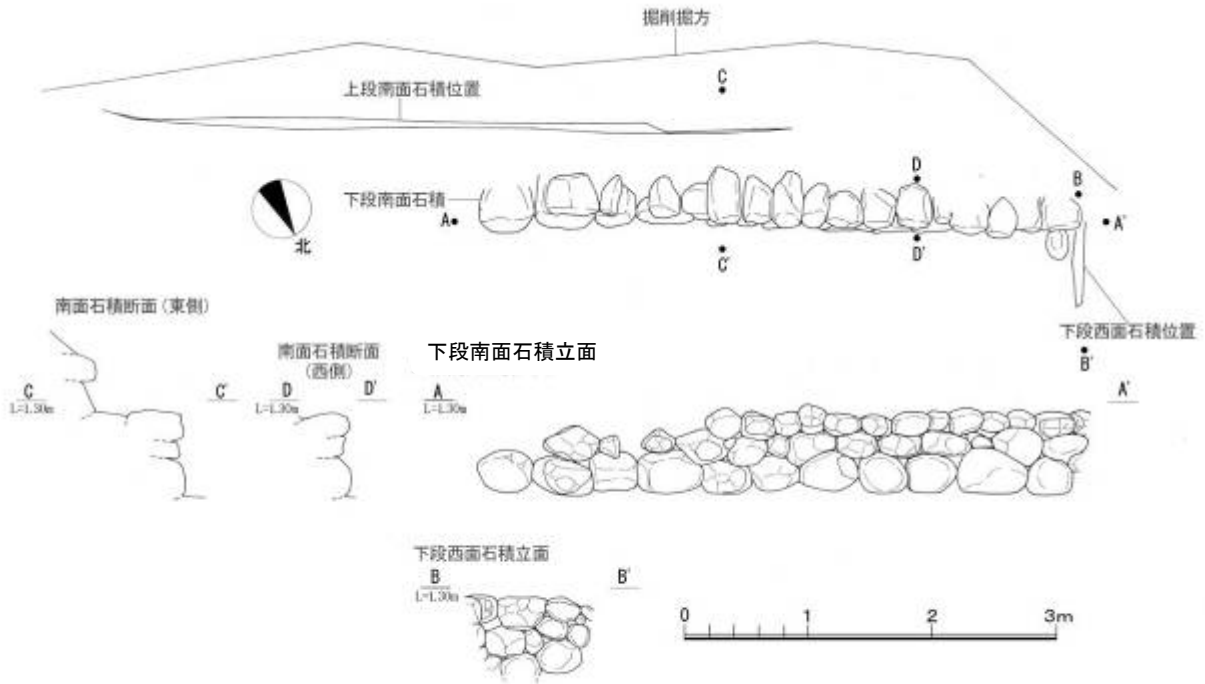
『金沢測量図籍』(赤)と遺構(青及びピンク)の相関関係



下段石積(石積①②)



上段石積(石積③)  
下段石積(右手前)は埋められた状態



### 3. 教育・普及・啓発活動事業

#### (1) 歴史ふれあい講座

当センターでは平成12年度より、職員が市内の小学校へ出向き、郷土の歴史と埋蔵文化財について小学校6年生に講義を行う「歴史ふれあい講座」を行っている。

講座内では貫頭衣の試着、石を使ってのクルミ割り、縄文～古墳時代の遺物見学、最後に火起こしまたは勾玉作りの体験がある。さらに現在の生活と文化財との接点を意識してもらえるよう、各小学校の校区内に所在する文化財や埋蔵文化財包蔵地を記した「文化財マップ」を配布し、校区内の遺跡から発掘された出土品を展示している。この内容で、1講座100分を所要する。

今年度は市内の小学校62校のうち半数以上にあたる35校から申し込みがあり、日程などを調整の上、20校で開催した。

今年度は開催期間が例年より2週間短い4月13日～5月15日、参加児童数は1,520名となり、累計参加者数は14,435人となった。火起こしを行った学校は11校、勾玉作りは9校である。

開催後、7校から感想文が提出されたので、その一部を抜粋する。

■クルミ割り かたいクルミを1個1個割って食べるなんて、昔の人は苦勞したんだと思った。台石のくぼみにクルミをはめるとうまく割れることに気がついた。

■文化財マップ (自分の住んでいる) 地区には遺跡がないと思っていたけど、遺跡がたくさんあってびっくりした。金沢に古墳があると初めて知った。

■遺物見学 弥生土器は底が尖っていて、縄文土器は底が平らで不思議だったが、弥生土器は米を炊くためだということがわかった。弥生土器と縄文土器をさわってみると、形や厚さがかなり違っていた。時代が変わると模様も変わるのが不思議だ。黒曜石がガラスのようだったのでびっくりした。ご飯を炊くかまを、よく火が通るように形を考え直した昔の人はすごい。

■火起こし 作業が難しく、火が点いた瞬間はすごうれしかった。昔の人はこんな苦勞をしていたんだと思った。

■勾玉 宝石などを石器を使って加工した苦勞の結晶なので、とても高価なものだったんだろうと思った。昔の人はもっと硬い石を使って玉を作っていたと聞いて、すごいと思った。

■全体 最初は歴史に興味がなかったけど、今では(昔の人は)大変だなと思ったことや、不思議だなと思ったことを考えるようになった。家族に今日の体験の話をとくさんしてあげると喜んでくれた。

#### 《過去5年間の事業実績》

実施年度	学校数	講座数	児童数
平成17年度	23	50	1,716
平成18年度	23	51	1,708
平成19年度	28	58	1,941
平成20年度	28	62	2,063
平成21年度	20	46	1,520



クルミ割り体験



火起こし体験

## (2) 金沢こども歴史探検隊

当センターでは平成 15 年度より、将来を担う子どもたちを対象にさらなる歴史体感の場として、市内の史跡・建造物など、実物の歴史遺産をフィールドとした歴史体感活動「金沢こども歴史探検隊」を実施している。これは、ふるさとの歴史をより理解し、地域と協働して貴重な歴史文化遺産を護ってゆく「金沢型の文化財保存活動」を実現する環境の形成を図ることが目的である。

今年度は、平成 21 年 2 月に国史跡指定となった、野田山の加賀藩主前田家墓所を会場とした。会場が傾斜地であるので、参加者を高学年と低学年に分け、それぞれに職員と文化財ボランティア「うめばちの会」会員が付き添ってコースを案内した。コースの途中に 10 か所のポイントがあり、そこで待機していた職員が各墓所の被葬者や加賀藩の歴史について説明し、それに関連するクイズ（高学年用 15 問、低学年用 10 問）を出題した。ゴール後、クイズの答え合わせと解説を行った。参加者は、各ポイントで熱心にメモをとり、全員が無事にゴールした。

### 第 9 回 「加賀藩主前田家墓所探検」

開催日：平成 21 年 5 月 23 日（土）

内 容：前田家墓所や加賀藩の歴史を  
題材とするクイズラリー

参加者：小学生および保護者 45 名

### 《過去5年間の事業実績》

実施年度	回数	タイトル
平成17年度	5	「考古学とは何だろう」
平成18年度	6	「めざせ堅田城主!!」
平成19年度	7	「めざせ金沢城博士!!」
平成20年度	8	「めざせ金沢城博士!!」 Vol. 2
平成21年度	9	「加賀藩主前田家墓所探検」



会場見取り図を兼ねた回答用紙の裏面



受付



ルール説明



ポイントでの解説

### (3) 市民ふるさと歴史研究会

当センターでは、一般市民を対象に埋蔵文化財に対する理解と愛護精神の醸成を目的として、発掘調査の成果を解説する講座「市民ふるさと歴史研究会」を平成16年度より年1、2回開催している。今年度および近年の概要は以下のとおりである。

今回の内容は、今年度発掘された「本多氏屋敷跡」の発掘調査に基づくものである。例年とは異なり、年度内に発掘された遺跡を対象として、現地見学を併催した。これは本多氏屋敷跡は通常の遺跡とは異なり、発掘調査後埋め戻されてもある程度視認できる遺構があったためである。講演には本多家第15代当主の本多政光氏を講師として招いた。会場は、遺跡内にある石川県立美術館広坂別館を使用した。

参加者に事前予約をお願いしたところ早速定員以上の申込みがあり、市民が近世加賀藩の歴史に高い関心を持っていることがうかがえた。

#### 第10回 「加賀八家本多家の歴史と上屋敷周辺の発掘報告」

会場：石川県立美術館 広坂別館 ホール

開催日：平成22年1月24日（日）

内容：講演 「加賀 本多家について」 本多政光氏(藩老本多蔵品館館長・本多家第15代当主)

報告 「本多家上屋敷関連遺構の発掘調査」 庄田主任主事(金沢市埋蔵文化財センター)

現地見学 「本多家上屋敷関連遺構」

参加者：約120人

#### 《過去5回の事業実績》

実施年度	回数	タイトル	対象となった遺跡・史跡
平成18年度	6	金沢の遺跡は語る	福増カワラケダ遺跡 南新保北遺跡
	7	荘園の考古学	上荒屋遺跡
平成19年度	8	金沢の城下町遺跡は語る	加賀藩主前田家墓所 金沢城惣構跡 広坂一丁目遺跡
平成20年度	9	水辺に暮らす縄文人	中屋サワ遺跡
平成21年度	10	加賀八家本多家の歴史と上屋敷周辺の発掘報告	本多氏屋敷跡



講演



現地見学

#### (4) 史跡活用事業

一般市民に郷土の歴史・文化と埋蔵文化財についての理解を深めてもらうことを目的に各種イベントを開催、これらを通じて文化財愛護の精神を培う機会の創出を目的としている。対象は小学校高学年から中学生およびその保護者を主とし、親子がふれあう機会を提供する場にもなっている。各イベントの実施概要は以下の通りである。

なお、開催にあたっては石川県史跡整備市町協議会から助成金をうけている。

##### 【史跡フェスタみわ】

国指定史跡東大寺領横江荘遺跡上荒屋遺跡の奈良・平安時代の初期荘園の風景を再現した上荒屋史跡公園を会場に、奈良・平安時代の生活体験イベントを平成9年度より行っている。

実施日：平成21年7月25日（土）

主な内容：古代衣裳試着体験 古代食試食体験  
火起こし体験 勾玉作り 土器作り  
まゆ糸取り体験 等

参加者：約120名

委託先：金沢市三和公民館振興協力会



復元庄家の前で古代衣裳試着

##### 【チカモリを知らう会】

チカモリ縄文まつりの一環として、地域の方々にチカモリ遺跡および縄文時代の生活について理解を深めてもらうため、下記のとおり学習会を開催した。

実施日：平成21年7月11日（土）

主な内容：木柱根の年輪年代測定成果

講師：向井主任主事（金沢市埋蔵文化財センター）

参加者：約40名



火起こし体験

##### 【チカモリ縄文まつり】

国指定史跡チカモリ遺跡の縄文時代の遺構を復元したチカモリ遺跡公園を会場に、縄文時代の生活を体験するイベントを平成7年度より行っている。

実施日：平成21年8月2日（日）

主な内容：火起こし体験 勾玉作り 土器作り  
縄文食試食体験 クルミ割り体験  
編み物体験 縄文クイズ  
縄文人コンテスト 等

参加者：約300名

委託先：金沢市西南部公民館振興協力会



勾玉作り体験



## (5) 現地説明会

発掘調査の成果を市民に還元する方法の一つとして、発掘調査現地説明会がある。実際に発掘調査を行っている現場を直に見学する現地説明会は、埋蔵文化財を身近に感じることのできる最良の方法の一つである。

今年度は、西外惣構跡（升形地点）、直江遺跡群、涌波遺跡（土清水塩硝蔵跡）の3カ所において現地説明会を開催した。開催概要は下表のとおりである。全て昨年度以前から発掘調査を行っており今後も継続する遺跡であるので、今年度の成果だけでなく過去の成果や出土遺物にもふれる、中間発表のような性格を帯びたものとなった。

各遺跡の概要については、本書1の(3)および(4)を参照してほしい。

### 《現地説明会開催一覧》

遺跡名	場 所	開催日	対象	参加者数
西外惣構跡 (升形地点)	金沢市本町地内	平成21年7月4日	惣構保存会 新塲惣構保存会 地元住民	約110名
直江南遺跡 直江ボンノシロ遺跡	金沢市直江町地内	平成21年10月10日	地元住民	約30名
涌波遺跡 (土清水塩硝蔵跡)	金沢市涌波町癸地内	平成21年11月14日	一般市民	約100名



西外惣構跡(升形地点) 遺構の解説



西外惣構跡(升形地点) 出土品の解説

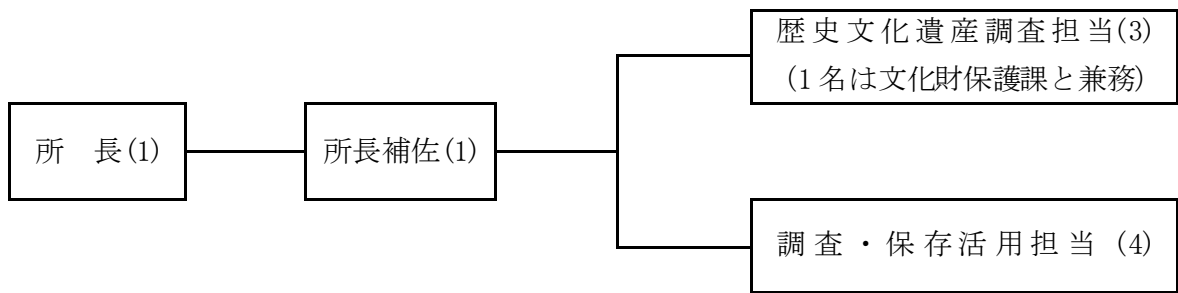


直江南遺跡 遺構の説明



涌波遺跡(土清水塩硝蔵跡) 遺構の説明

## 4. 組織



平成 21 年度

### 金沢市埋蔵文化財調査年報

平成 22 年(2010 年)3 月 31 日発行

発 行 金沢市  
編 集 金沢市埋蔵文化財センター  
〒920-0374  
金沢市上安原南 60  
TEL 076-269-2451  
FAX 076-269-2452